

有価証券報告書

事業年度 自 平成29年 4月 1日
(第112期) 至 平成30年 3月31日

 日本特殊塗料株式会社

有価証券報告書

- 1 本書は金融商品取引法第24条第1項に基づく有価証券報告書を、同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した有価証券報告書に添付された監査報告書及び上記の有価証券報告書と併せて提出した内部統制報告書・確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

頁

第112期 有価証券報告書

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【沿革】	4
3 【事業の内容】	5
4 【関係会社の状況】	7
5 【従業員の状況】	9
第2 【事業の状況】	10
1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】	10
2 【事業等のリスク】	12
3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	14
4 【経営上の重要な契約等】	18
5 【研究開発活動】	19
第3 【設備の状況】	21
1 【設備投資等の概要】	21
2 【主要な設備の状況】	21
3 【設備の新設、除却等の計画】	22
第4 【提出会社の状況】	23
1 【株式等の状況】	23
2 【自己株式の取得等の状況】	26
3 【配当政策】	27
4 【株価の推移】	27
5 【役員の状況】	28
6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】	31
第5 【経理の状況】	38
1 【連結財務諸表等】	39
2 【財務諸表等】	75
第6 【提出会社の株式事務の概要】	87
第7 【提出会社の参考情報】	88
1 【提出会社の親会社等の情報】	88
2 【その他の参考情報】	88
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	89

監査報告書

内部統制報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年6月22日

【事業年度】 第112期(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

【会社名】 日本特殊塗料株式会社

【英訳名】 Nihon Tokushu Toryo Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 酒井 万喜夫

【本店の所在の場所】 東京都北区王子三丁目23番2号
(平成29年9月19日から本店所在地 東京都北区王子五丁目16番7号
が上記の住所に移転しております。)

【電話番号】 03(3913)6131(代表)

【事務連絡者氏名】 代表取締役専務業務本部長 田 谷 純

【最寄りの連絡場所】 東京都北区王子三丁目23番2号

【電話番号】 03(3913)6134

【事務連絡者氏名】 代表取締役専務業務本部長 田 谷 純

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第108期	第109期	第110期	第111期	第112期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
売上高 (百万円)	39,391	39,570	43,812	47,998	57,260
経常利益 (百万円)	3,328	4,036	5,533	6,741	5,881
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	2,712	3,029	3,966	4,778	3,960
包括利益 (百万円)	5,489	5,570	3,063	5,656	5,118
純資産額 (百万円)	26,794	31,385	34,235	39,539	43,674
総資産額 (百万円)	47,960	53,428	56,894	66,987	77,043
1株当たり純資産額 (円)	1,162.66	1,357.76	1,470.33	1,662.73	1,820.06
1株当たり 当期純利益金額 (円)	122.69	137.00	179.37	216.11	179.12
潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益金額 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	53.6	56.2	57.1	54.9	52.2
自己資本利益率 (%)	11.7	10.9	12.7	13.8	10.3
株価収益率 (倍)	5.0	5.6	5.0	8.0	11.9
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,180	3,126	4,779	6,926	6,235
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△1,876	△2,651	△3,712	△6,055	△7,326
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△475	△686	365	1,210	232
現金及び現金同等物 の期末残高 (百万円)	4,710	4,617	6,073	8,555	7,743
従業員数 (外、平均臨時雇用 者数) (人)	901 (171)	948 (191)	943 (193)	1,070 (469)	1,106 (574)

(注) 1 売上高には消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 従業員数は就業人員数を記載しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次		第108期	第109期	第110期	第111期	第112期
決算年月		平成26年 3 月	平成27年 3 月	平成28年 3 月	平成29年 3 月	平成30年 3 月
売上高	(百万円)	31,791	33,339	35,658	38,056	44,591
経常利益	(百万円)	1,929	2,658	3,640	3,717	3,475
当期純利益	(百万円)	1,495	2,020	2,664	3,282	2,939
資本金	(百万円)	4,753	4,753	4,753	4,753	4,753
発行済株式総数	(株)	23,611,200	23,611,200	23,611,200	23,611,200	23,611,200
純資産額	(百万円)	19,811	22,227	23,942	27,500	30,065
総資産額	(百万円)	37,483	40,797	42,915	48,703	56,855
1株当たり純資産額	(円)	892.68	1,001.55	1,078.80	1,239.14	1,354.75
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配 当額)	(円)	12.00 (4.00)	12.00 (4.00)	20.00 (6.00)	28.00 (10.00)	32.00 (14.00)
1株当たり 当期純利益金額	(円)	67.38	91.03	120.07	147.91	132.44
潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益金額	(円)	—	—	—	—	—
自己資本比率	(%)	52.9	54.5	55.8	56.5	52.9
自己資本利益率	(%)	8.1	9.6	11.5	12.8	10.2
株価収益率	(倍)	9.1	8.5	7.5	11.6	16.0
配当性向	(%)	17.8	13.2	16.7	18.9	24.2
従業員数 (外、平均臨時雇用 者数)	(人)	496 (117)	493 (124)	504 (136)	523 (134)	553 (144)

(注) 1 売上高には消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 第108期の1株当たり配当額12円には、創立85周年記念配当2円を含んでおります。

4 従業員数は就業人員数を記載しております。

2 【沿革】

昭和4年6月	日本特殊塗料合資会社として、東京都北区に設立し東京工場を新設
昭和11年8月	株式会社に改組し、日本特殊塗料株式会社となる
昭和20年5月	九州工場を新設
昭和35年8月	愛知工場を新設
昭和36年10月	東京証券取引所市場第二部に上場
昭和37年8月	東邦塗料株式会社を合併
昭和39年5月	平塚工場を新設(東京工場を移設)
昭和42年9月	Matec Holding AG[現・Autoneum Holding AG](スイス)と防音材料、防音技術に関する技術提携
昭和43年8月	日特不動産株式会社 [現・ニットク商工株式会社] を設立(現・連結子会社)
昭和43年11月	広島工場を新設
昭和44年12月	静岡工場を新設
昭和48年1月	日晁工業株式会社を設立(現・連結子会社)
昭和54年9月	富士産業株式会社に資本参加(現・持分法適用関連会社)
昭和55年4月	株式会社タカヒロを設立(現・連結子会社)
昭和55年6月	ニットクメンテ株式会社を設立(現・連結子会社)
昭和58年4月	株式会社ニットク保険センターを設立(現・連結子会社)
昭和59年7月	Uni-NTF, Inc. (米国)を設立(現・持分法適用非連結子会社)
昭和61年4月	Uni-NTF, Inc. (米国)とGlobe Industries, Inc [現・Autoneum North America, Inc] (米国)との合弁会社UGN, Inc. (米国)を設立(現・持分法適用関連会社)
平成3年3月	開発センターを新設(東京都北区)
平成3年9月	東京証券取引所市場第一部銘柄に指定
平成3年12月	東九州工場を新設
平成4年9月	株式会社ニットクシーケーを設立(現・連結子会社)
平成6年6月	Summit Auto Seats Industry Co, Ltd(タイ)との合弁会社SNC Sound Proof Co., Ltd.(タイ)を設立(現・持分法適用関連会社)
平成10年2月	塗料技術棟を新設(東京都北区)
平成13年10月	当社の全事業所でISO 9001を認証取得
平成14年11月	当社の全工場(6工場)でISO 14001を認証取得
平成15年10月	Rietor Automotive International AG [現・Autoneum Holding AG] (スイス)との合弁会社日特固(広州)防音配件有限公司(中国)を設立 (現・持分法適用関連会社)
平成16年3月	Rietor Automotive International AG [現・Autoneum Holding AG] (スイス)との合弁会社天津日特固防音配件有限公司(中国)を設立 (現・持分法適用関連会社)
平成17年1月	Summit Auto Seats Industry Co, Ltd(タイ)他1社との合弁会社SRN Sound Proof Co., Ltd.(タイ)を設立(現・持分法適用関連会社)
平成20年5月	梅居産業株式会社に資本参加 (現・持分法適用関連会社)
平成20年6月	Rietor Automotive International AG [現・Autoneum Holding AG] (スイス)との合弁会社Rieter Nittoku Automotive Sound Proof Products India Pvt. Ltd.(インド) (現・Autoneum Nittoku Sound Proof Products India Pvt. Ltd.) を設立
平成22年7月	武漢日特固防音配件有限公司(中国)を設立(現・連結子会社)
平成24年2月	大和特殊工機株式会社の全株式を取得 (現・連結子会社)
平成24年4月	PT. TUFFINDO NITTOKU AUTONEUM (インドネシア) (現・連結子会社) を設立
平成29年9月	本社を現在の東京都北区に新設・移転

3 【事業の内容】

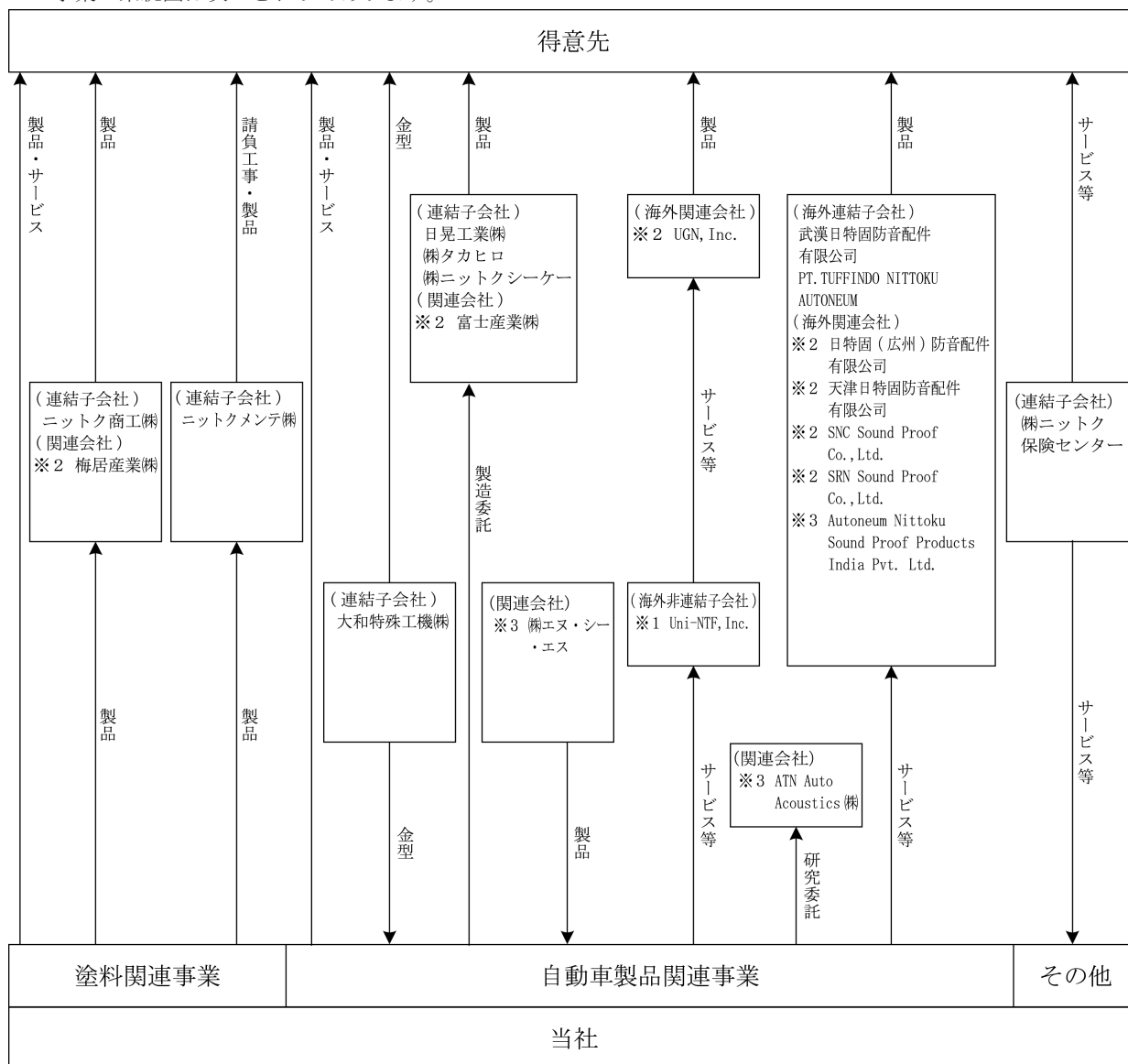
当社グループ(当社及び当社の関係会社)は当社、子会社10社及び関連会社10社により構成されております。

事業内容としては、塗料関連事業では、塗料の製造・販売及び工事請負を主たる事業としており、また、自動車製品関連事業では、自動車用防音材(制振材、吸・遮音材)、防錆塗料などの自動車部品の製造・販売並びにこれに関連した研究、開発などの事業活動を行っております。

当社グループの事業における当社及び関係会社の位置付け及びセグメントとの関連は、次のとおりであります。なお、以下に示す区分は、セグメントと同一の区分であります。

区分	会社名
塗料関連事業	当社、ニットクメンテ(株)、ニットク商工(株)、梅居産業(株)
自動車製品関連事業	当社、日晃工業(株)、(株)タカヒロ、(株)ニットクシーケー、富士産業(株)、大和特殊工機(株)、(株)エヌ・シー・エス、Uni-NTF, Inc.、UGN, Inc.、SNC Sound Proof Co., Ltd.、日特固(広州)防音配件有限公司、天津日特固防音配件有限公司、武漢日特固防音配件有限公司、SRN Sound Proof Co., Ltd.、Autoneum Nittoku Sound Proof Products India Pvt. Ltd.、PT.TUFFINDO NITTOKU AUTONEUM、ATN Auto Acoustics(株)
その他	(株)ニットク保険センター

事業の系統図は次のとおりであります。



(注) 無印 連結子会社

- ※1 非連結子会社で持分法適用会社
- ※2 関連会社で持分法適用会社
- ※3 関連会社で持分法非適用会社

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は出資金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の所有(又は被所有)割合 (%)	関係内容	
(連結子会社)						
ニットク商工㈱	東京都北区	80	塗料関連事業	100.0	役員の兼任 営業上の取引 設備の賃貸借	3名 当社製品の販売 建物、社宅等の賃貸借
ニットクメンテ㈱	東京都北区	100	塗料関連事業	85.5	役員の兼任 営業上の取引 その他	3名 当社製品を工事に使用 債務保証予約 建物等の賃貸借
㈱ニットク保険センター	東京都北区	10	その他(保険代理業)	100.0	役員の兼任 営業上の取引	3名 損害保険の取扱い
大和特殊工機㈱	神奈川県 藤沢市	48	自動車製品関連事業	100.0	役員の兼任 営業上の取引	1名 金型の製造委託
武漢日特固防音配件有限公司(注4)	中国 湖北省武漢市	百万元 89	自動車製品関連事業	52.5	役員の兼任 営業上の取引 その他	3名 当社製品の製造・販売 債務保証、資金の貸付
日晃工業㈱(注4)	東京都足立区	487	自動車製品関連事業	85.9	役員の兼任 営業上の取引 設備の賃貸借 その他	2名 当社製品の製造委託 防音材製造技術の供与 建物等の賃貸借・金型の貸与 資金の貸付
㈱タカヒロ(注3)	広島県 東広島市	100	自動車製品関連事業	50.0	役員の兼任 営業上の取引	1名 当社製品の製造委託 防音材製造技術の供与
㈱ニットクシーケー(注3)	福岡県行橋市	80	自動車製品関連事業	50.0	役員の兼任 営業上の取引 設備の賃貸借	3名 当社製品の製造委託 建物の賃貸借
PT. TUFFINDO NITTOKU AUTONEUM(注3, 4)	インドネシア Jakarta	百万インドネシア ルピア 162,666	自動車製品関連事業	45.0	役員の兼任 営業上の取引 その他	2名 当社製品の製造・販売 防音材製造技術の供与 債務保証、資金の貸付
(持分法適用関連会社)						
富士産業㈱	神奈川県 平塚市	20	自動車製品関連事業	38.8 被所有(0.7)	役員の兼任 営業上の取引	2名 当社製品の製造委託 及び製品の販売
梅居産業㈱	福岡県福岡市	49	塗料関連事業	39.9 被所有(0.2)	営業上の取引	当社製品の販売
UGN, Inc.	米国 イリノイ州	百万米ドル 1	自動車製品関連事業	40.0 (15.0)	役員の兼任 営業上の取引 その他	3名 当社製品の製造・販売 防音材製造技術の供与
SNC Sound Proof Co., Ltd.	タイ Amphur Muang Chonburi	百万パーツ 80	自動車製品関連事業	33.0	役員の兼任 営業上の取引 その他	1名 当社製品の製造・販売 防音材製造技術の供与
日特固(広州)防音配件有限公司	中国 広東省広州市	百万元 75	自動車製品関連事業	44.0	役員の兼任 営業上の取引 その他	2名 当社製品の製造・販売 防音材製造技術の供与
天津日特固防音配件有限公司	中国 天津市	百万元 47	自動車製品関連事業	34.0	役員の兼任 営業上の取引 その他	1名 当社製品の製造・販売 防音材製造技術の供与
SRN Sound Proof Co., Ltd.	タイ Amphur Panthong Chonburi	百万パーツ 100	自動車製品関連事業	30.0	役員の兼任 営業上の取引	1名 当社製品の製造・販売 防音材製造技術の供与

- (注) 1 「主要な事業の内容」欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。
2 「議決権の所有(又は被所有)割合」欄の(内書)は間接所有であります。
3 持分は100分の50以下であります。実質的に支配しているため子会社としております。
4 特定子会社であります。
5 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。

- 6 ニットクメンテ(株)については、売上高（連結会社相互間の内部売上高を除く。）の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	(1)売上高	5,811百万円
	(2)経常利益	65百万円
	(3)当期純利益	33百万円
	(4)純資産額	716百万円
	(5)総資産額	3,059百万円

5 【従業員の状態】

(1) 連結会社の状態

(平成30年3月31日現在)

セグメントの名称	従業員数(人)
塗料関連事業	212 (58)
自動車製品関連事業	852 (514)
その他	1 (ー)
全社(共通)	41 (2)
合計	1,106 (574)

- (注) 1 従業員数は就業人員数(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であり、臨時従業員数は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。
- 2 臨時従業員には、期間雇用、パートタイマー及び嘱託契約の従業員を含み、派遣社員を除いて記載しております。

(2) 提出会社の状態

(平成30年3月31日現在)

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
553 (144)	41 歳	18 年	6,803,000

セグメントの名称	従業員数(人)
塗料関連事業	164 (34)
自動車製品関連事業	348 (108)
全社(共通)	41 (2)
合計	553 (144)

- (注) 1 従業員は就業人員数(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。)であり、臨時従業員数は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。
- 2 臨時従業員には、期間雇用、パートタイマー及び嘱託契約の従業員を含み、派遣社員を除いて記載しております。
- 3 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状態

当社の労働組合は、日本化学エネルギー産業労働組合連合会に加盟しております。連結子会社においては労働組合はありません。

なお、平成30年3月31日現在の組合員数は474名であり、労使関係は円滑な関係にあり特記すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末（平成30年3月31日）現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営の基本方針

当社グループは、「卓越した技術と製品により社会に貢献する」「株主の利益を尊重し、社員の人格を大切にす
る」「環境と共生し、国際標準に準拠しつつ、永遠の発展を目指す」を経営理念としております。

この理念のもと、経営の基本方針として「創意工夫を社是とし、独自の技術と製品をもって顧客の要望と信頼に
こたえる」「世界に活躍する企業として総合開発力を結集し、新製品・新需要の開発に挑戦する」「人材の育成・
登用をはかるとともに、一切の無駄を省き、高生産性・高収益を追求する」を掲げ、持続可能な成長を実現する体
制を構築するとともに、さらなる企業価値向上を追究してまいります。

(2) 中長期的な経営戦略、事業上及び財務上の対処すべき課題

当社グループの中長期的な経営戦略としましては、明確な長期ビジョンのもと、以下の経営の基本戦略、事業上
及び財務上の対処すべき課題を着実に遂行することで、中長期的な成長と企業体質の強化を図ってまいります。

① 国内事業の安定的な収益基盤の構築

・生産効率化とコスト低減による競争力強化

工場の生産体制の抜本的見直しや生産設備の適正化、さらには製品・原材料の統廃合の推進、配合原底等
に徹底的に取り組み、高収益体質を構築してまいります。

・高付加価値製品の販売増強によるシェア拡大

当社の強みである機能性・軽量化・環境対応を主眼に、自動車製品関連・塗料関連の両事業において、他
社に対し差別化できる高付加価値製品の販売増強により、業界シェアを拡大してまいります。

・品質向上の一層の推進

基本動作の徹底、なぜなぜ運動による真の原因追究、恒久対策実施により品質向上を推進してまいりま
す。

② 「技術のニットク」の強化と新技術・新製品の開発

・「技術のニットク」の強化

事業部門間の研究開発のシナジー効果を高めつつ、ニットクラしさ・強みを生かした高機能・高付加価値
製品の開発を推進してまいります。特に自動車製品関連事業については、次世代環境車、自動運転化の進展
を見据え、ニーズの多様化に対応する将来技術の開発を推進してまいります。

・新規事業への取組み強化

自動車の防音技術を生かし、防音に関するさまざまな企業、個人のニーズに応える防音製品を開発し、新
たなビジネス展開を目指してまいります。

③ グローバル展開の加速

自動車メーカーのグローバル展開に対応し、技術提携先との連携を強化するとともに、日本国内からの技
術・営業・生産面での支援により、一層の業績拡大を目指してまいります。

④ 持続的な成長に向けた事業基盤の充実

・人財（材）育成と働きやすい環境の醸成

多様な人財の活性化、高度専門人財およびグローバル人財の育成・強化を進める。また働き方改革を推進
し、当社の良きDNAの1つである「働き甲斐のある活力に満ちた企業風土」を深化・醸成し、次世代に継
承してまいります。

・コンプライアンスへの徹底的な取組み

リスク点検・リスク対策を継続的に実施するとともに、「行動規範」の遵守徹底およびコンプライアンス
意識の向上を図ってまいります。

- ・コーポレートガバナンス・コードへの的確な対応

コーポレートガバナンスを着実に推進するとともに、グループ全体での内部統制体制の充実、多面的なリスクマネジメントを展開してまいります。

- ・CSR（企業の社会的責任）の推進

さまざまな社会的課題の解決に寄与する製品・サービスを提供する企業、さまざまなステークホルダーとの係わりを大切にする企業を目指す。また、環境との調和ある成長を経営の最重点課題のひとつと位置づけ、環境に配慮しつつ機能性を追及し、環境保全、そして快適な社会づくりに貢献してまいります。

(3) 目標とする経営指標

当社グループは、持続可能な成長性を確保する観点から前期対比売上高成長率、売上高経常利益率を採用しております。これらを重要な指標として位置づけ、販売の増強とともに生産体制の拡充・生産性効率化を図り、安定的な収益基盤の構築による企業価値向上を目指してまいります。

(4) 当社グループを取り巻く経営環境

自動車業界におきましては、100年に一度と言われる大変革期を迎え、環境規制強化の流れの中、自動運転、電気自動車、コネクテッド、シェアリングの大きなトレンドの波が同時に押し寄せ、競争環境が大きく変わろうとしております。また、自動車生産は、日本経済の低成長という構造的な問題から国内生産の増加は期待できず、中国等の新興国への自動車生産シフトが加速しております。

一方の塗料業界におきましては、国内市場はオリンピックや震災復興の需要が期待されるものの、趨勢的には縮小傾向にあり、業界内の競争は引き続き熾烈を極めるものと予想されます。

2【事業等のリスク】

当社グループの財政状態、経営成績等に影響を及ぼす可能性のあるリスクには以下のようなものがあります。なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末（平成30年3月31日）現在において当社グループが判断したものでありますが、当社グループに関する全てのリスクを網羅したものではありません。

(1) 経営方針に係るもの

当社グループは、技術開発や業務展開を効率的に行いつつ、経営資源を最適化するために技術提携や合弁の形で多くのパートナーと共同で事業を行っておりますが、共同活動の当事者間で歩調の不一致等が生じた場合は、当社グループの経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

(2) 財政状態及び経営成績の変動に係るもの

① 為替リスク

当社グループの海外市場での業務展開は、合弁会社による現地生産を主体としております。これら合弁会社への出資金、合弁会社からの配当金、技術提携先との技術料の受け払いなど、一定の為替リスクを伴います。また、当社グループが購入する原材料は海外で産出されるものが多く、これらの価格は直接・間接に為替相場の影響を受けます。為替リスクを回避、軽減するために手段を講じておりますが、為替相場の変動により当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

② 金利変動リスク及び資金調達リスク

当社グループは、将来に亘って必要な設備を新規あるいは更新のため、設備投資資金や運転資金を金融機関からの借入により賄っております。長期借入金は概ね固定金利により金利変動リスクの低減を図っておりますが、大幅な金利変動が生じた場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。また、現状取引金融機関との関係は良好で必要資金は問題なく調達できておりますが、将来も引き続き充分に調達可能であるという保証はありません。

③ 有価証券投資の影響

当社は、取引金融機関、関係会社、重要取引先の株式を中心に長期保有目的の株式ポートフォリオを有しております。保有株式の個々の価格変動が、当社の経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

④ 退職給付債務

当社グループの保有する年金資産の著しい下落、実際の運用結果や予定給付債務計算の前提・仮定から大幅な不利となった場合は、当社グループの経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

⑤ 海外事業展開のリスク

当社グループは、北米、中国、タイ、インドネシア、インドにおいて合弁事業の形を主体に事業を展開しております。海外での事業においては、それぞれの国や地域において以下の諸点等で困難が発生し、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

- ・ 予期し得ない法律・規制、租税制度等の変更
- ・ 労務環境の違いに基づく争議等の発生
- ・ 電力、水、輸送等インフラ面での障害発生
- ・ 自然災害、伝染病等衛生上の問題
- ・ テロ、政情不安、治安の悪化 等

(3) 品質管理体制、製造物責任

当社グループは、品質基準「ISO9001」の認証を受け、このシステムに従って製品の製造・品質管理を行っております。しかしながら、全ての製品について欠陥が無く将来クレームが発生しないという保証はありません。また、製造物責任賠償保険に加入しておりますが、万一、製造物責任賠償保険で充分に填補できない製品の欠陥による損失が発生した場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

(4) 法的規制

当社グループは、環境との共生を最重要課題の一つと捉え、環境対策には万全を期し関連法規を遵守した事業活動を行っておりますが、環境維持に対する社会的要請は年々高まり、関連法規は年々厳しさを増しております。将来においてこれらの法的規制の強化や新たな規制の制定が行われた場合には、当社グループの事業活動が制限される可能性や規制遵守のコスト増加につながる可能性があります。その内容によっては当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 重要な訴訟事件等の発生に係るもの

当社グループは、現時点において将来の業績に重大な影響を及ぼすと思われるような損害賠償の請求や訴訟の提起を受けている事実はありません。しかし、将来当社グループの事業活動に関連して、製品の不具合、有害物質の発生、知的所有権問題その他様々な事由で当社グループに対して訴訟その他の請求が提起される可能性があります。その内容によっては当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 災害に係るもの

当社グループの拠点のいずれかが地震などの災害に罹災し、生産・稼働等が困難となった場合は、当社グループの経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。高い確率で予想されている首都直下型地震や東海・東南海・南海地震には、納入責任を果たすべく事業継続計画を策定しておりますが、想定外の現象も起きる可能性は否定できず、その内容によっては当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概況

当連結会計年度における当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローは（以下「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

① 財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益の改善や堅調な雇用・所得環境を背景に緩やかな回復基調で推移しました。一方、海外においては、欧米を中心に堅調さを維持しているものの、米国の保護主義的政策、中東や東アジア等での国際的緊張の高まりなど、世界経済の先行きは不透明な状況が継続しております。

このような状況のもと、当連結会計年度における当社グループの売上高は、自動車製品関連事業を中心とした国内外での受注増加により572億6千万円（前期比19.3%増）となりました。

損益面につきましては、売上増収に対応し生産性の向上に努めましたが、原材料価格の高騰、新規部品生産立上げ費用や固定費の増加により営業利益は32億8千6百万円（前期比3.9%増）、経常利益は58億8千1百万円（前期比12.8%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は39億6千万円（前期比17.1%減）となりました。

なお、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は、主に持分法による投資利益が前期比で減少すること（前期は米国関連会社における固定資産売却益9億6千万円を計上）等により、前期を下回っております。

前年同期との比較については、以下のとおりとなっております。

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株主に帰属 する当期純利益 (百万円)
当連結会計年度	57,260	3,286	5,881	3,960
前連結会計年度	47,998	3,162	6,741	4,778
増減率(%)	19.3%	3.9%	△12.8%	△17.1%

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

塗料関連事業

当セグメントの業績につきましては、売上高は工事関連売上が堅調に推移し、前期比増収を牽引しましたが、セグメント利益は原材料価格の高騰、固定費増加により前期を下回りました。

品種別売上高につきましては、建築・構築物用塗料のうち、床用塗料が新規顧客の確保、拡販等により前期比0.6%増加しました。一方、国内需要の低迷、機能性塗料の多様化等に起因する競争激化の影響から、防水用塗料は前期比2.7%減少し、屋根用塗料は前期比8.0%減少しました。

工事関連売上の集合住宅大規模改修工事につきましては、工事契約物件の増加や工事の順調な進捗により前期比28.5%増と大きく伸張しました。

この結果、当セグメントの売上高は161億2千4百万円（前期比5.9%増）、セグメント利益は4億4千8百万円（前期比37.2%減）となりました。

自動車製品関連事業

当セグメントの業績につきましては、売上高は国内外で新規部品を中心に受注が増加し、前期を大きく上回りました。セグメント利益についても、大幅な増収により前期を上回りましたが、新規部品生産立上げ費用や固定費の増加など売上原価の高止まりでセグメント利益率は低下しました。

品種別売上高につきましては、主力製品の吸・遮音材が、当社グループにとって新規部品となる自動車用フロアカーペット等の受注増加により前期比39.6%増と大きく伸張しました。

また、制振材は前期比4.7%増、防錆塗料は前期比3.2%増、原材料輸出等のその他売上は前期比13.4%増といずれも前期を上回りました。

この結果、当セグメントの売上高は411億2千2百万円（前期比25.5%増）、セグメント利益は28億3千万円（前期比16.0%増）となりました。

その他

保険代理業の売上高は1千3百万円（前期比1.9%減）、セグメント利益は6百万円（前期比11.0%減）となりました。

（注）各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高消去後の数値を記載しております。

② キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ8億1千2百万円減少し、77億4千3百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動による資金は、62億3千5百万円の収入（前期比6億9千1百万円の減少）となりました。この主な要因は、税金等調整前当期純利益57億6千9百万円、売上債権の増加額32億8千6百万円、仕入債務の増加額21億1千7百万円、利息及び配当金の受取額19億2千4百万円、法人税等の支払額9億4千2百万円によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動による資金は、73億2千6百万円の支出（前期比12億7千万円の増加）となりました。この主な要因は、有形及び無形固定資産の取得による支出72億5千5百万円によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動による資金は、2億3千2百万円の収入（前期比9億7千7百万円の減少）となりました。この主な要因は、長期借入れによる収入26億1千8百万円、長期借入金の返済による支出15億5千7百万円、配当金の支払額7億7百万円によるものです。

③ 生産、受注及び販売の状況

a. 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(百万円)	前年同期比(%)
塗料関連事業	8,896	△2.2
自動車製品関連事業	28,923	23.4
合計	37,819	16.2

- (注) 1 金額は販売価格によっております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

b. 受注実績

当グループは受注による生産は僅かであり、主として見込生産によっておりますので、受注並びに受注残高について特に記載すべき事項はありません。

c. 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同期比(%)
塗料関連事業	16,124	5.9
自動車製品関連事業	41,122	25.5
その他	13	△1.9
合計	57,260	19.3

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。
 2 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	販売高(百万円)	割合(%)	販売高(百万円)	割合(%)
㈱中外	5,814	12.1	6,456	11.3
㈱本田技研工業	5,058	10.5	6,375	11.1

- 3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

① 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたって採用している重要な会計方針は、「第5 経理の状況 1〔連結財務諸表等〕〔連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項〕」に記載のとおりであります。連結財務諸表の作成においては、過去の実績やその時点で合理的と考えられる情報に基づき、会計上の見積り及び判断を行っておりますが、実際の結果は見積り特有の不確実性により、これら見積りと異なる場合があります。

② 当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討

a. 経営成績の分析

(売上高)

当連結会計年度における売上高は、前連結会計年度に比べ92億6千1百万円増加し、572億6千万円（前期比19.3%増）となりました。また、地域別売上高では中国での売上が54億8千万円（前期比38.3%増）と大きく伸張しました。これは主に自動車製品関連事業における自動車用防音材（吸・遮音材）を中心に国内及び海外連結子会社で受注が増加したことによるものです。

各報告セグメントの外部顧客に対する売上高の連結売上高に占める割合は、塗料関連事業が28.2%、自動車製品関連事業が71.8%となりました。セグメント別の売上高につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要 ① 財政状態及び経営成績の状況」に記載のとおりであります。

(売上総利益)

当連結会計年度における売上総利益は、前連結会計年度に比べ13億3千5百万円増加し、125億9千7百万円（前期比11.9%増）となりました。一方、売上総利益率は前期比1.5ポイント減少し22.0%となりました。これは主に自動車製品関連事業での生産設備増強による減価償却費の増加等、売上原価の増加によるものです。

(営業利益)

当連結会計年度における販売費及び一般管理費は、前連結会計年度に比べ12億1千2百万円増加し、93億1千1百万円（前期比15.0%増）となりましたが、売上高比率では前期比0.6ポイント減少しました。

以上の結果、当連結会計年度における営業利益は、前連結会計年度に比べ1億2千3百万円増加し、32億8千6百万円（前期比3.9%増）となりました。一方、営業利益率は前期比0.9ポイント減少し、5.7%となりました。

(経常利益)

当連結会計年度における営業外収益は、持分法による投資利益が前期比11億4千7百万円減少（前期は米国関連会社における固定資産売却益9億6千万円を計上）したことで、前連結会計年度に比べ10億8千4百万円減少し、27億4千6百万円（前期比28.3%減）となりました。営業外費用は前連結会計年度に比べ1億1百万円減少し、1億5千1百万円（前期比40.3%減）となりました。

以上の結果、当連結会計年度における経常利益は、前連結会計年度に比べ8億5千9百万円減少し、58億8千1百万円（前期比12.8%減）となりました。

(親会社株主に帰属する当期純利益)

当連結会計年度における親会社株主に帰属する当期純利益は、前連結会計年度に比べ8億1千8百万円減少し、39億6千万円（前期比17.1%減）となりました。

b. 財政状態の分析

(資産の部)

当連結会計年度末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ100億5千5百万円増加し、770億4千3百万円となりました。主な要因は、現金及び預金の減少8億1千2百万円、受取手形及び売掛金の増加17億8千7百万円、電子記録債権の増加15億2千5百万円、有形固定資産の増加61億4千4百万円、投資有価証券の増加7億3千1百万円によるものです。

(負債の部)

負債合計は、前連結会計年度末に比べ59億2千1百万円増加し、333億6千8百万円となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金の増加21億2千万円、短期借入金の増加3億1千9百万円、未払法人税等の増加1億8千7百万円、流動負債のその他の増加23億6千7百万円、長期借入金の増加10億1千9百万円によるものです。

(純資産の部)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ41億3千4百万円増加し、436億7千4百万円となりました。主な要因は、利益剰余金の増加32億5千万円、その他有価証券評価差額金の増加3億4千6百万円、非支配株主持分の増加6億5千8百万円によるものです。自己資本比率は2.7%減少し52.2%となりました。

c. キャッシュ・フローの分析

キャッシュ・フローの分析につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要 ② キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因につきましては、「第2 事業の状況 2 事業等のリスク」に記載のとおりであります。

当社グループの資本の財源及び資金の流動性につきましては、次のとおりであります。

当社グループの運転資金需要のうち主なものは、原材料の仕入、製造費、販売費及び一般管理費等の営業費用になります。投資を目的とした資金需要は、主に生産設備等への投資によるものです。

短期運転資金は自己資金及び金融機関からの短期借入を基本としており、設備資金の調達につきましては、金融機関からの長期借入を基本としております。

なお、当連結会計年度末における借入金及びリース債務を含む有利子債務は85億4百万円、キャッシュ・フロー対有利子負債比率は1.4%となっております。また、当連結会計年度末における現金及び現金同等物の残高は77億4千3百万円となっております。

4 【経営上の重要な契約等】

技術提携

(1) 技術援助契約

契約会社名	相手方の名称	国名	契約の内容	契約期間	対価
日本特殊塗料株式会社 (提出会社)	EFTEC AG	スイス	自動車用保護・防錆塗料・塗布型制振材の製造・販売に係わるグローバルライセンス及びコーポレーション契約	平成24年1月1日から平成30年6月30日まで。ただし、期限前12ヶ月時点で延長か終了を協議。	(注) 1 (注) 3
	Autoneum Management AG	スイス	防音材の生産・販売に係る援助	平成25年1月1日から平成30年6月30日まで。5年毎の契約の自動延長。	(注) 1 (注) 3
	CHU CHANG RUBBER CO., LTD.	台湾	自動車用制振材の製造・販売権の供与	平成30年3月6日から平成35年3月5日まで。	(注) 1
	SNC Sound Proof Co., Ltd.	タイ	自動車用防音材の製造・販売権の供与及び生産技術、製品開発サポート	平成8年8月14日から会社存続期間中。	(注) 2
	UGN, Inc.	米国	自動車用防音材の製造・販売権の供与及び製品開発サポート	平成14年12月1日から会社存続期間中。	(注) 2
	日特固(広州)防音配件有限公司	中国	自動車用防音材の製造・販売権の供与及び生産技術、製品開発サポート	平成15年8月5日から会社存続期間中。	(注) 1
	天津日特固防音配件有限公司	中国	自動車用防音材の製造・販売権の供与及び生産技術、製品開発サポート	平成16年2月25日から会社存続期間中。	(注) 1
	SRN Sound Proof Co., Ltd	タイ	自動車用防音材の製造・販売権の供与及び生産技術、製品開発サポート	平成20年1月1日から会社存続期間中。	(注) 1
	Guandong TGPM Automotive Industry Group Co., Ltd.	中国	自動車用塗料の製造・販売に係る技術供与	平成22年1月1日から平成30年6月30日まで。	(注) 1 (注) 3
	武漢日特固防音配件有限公司	中国	自動車用防音材の製造・販売権の供与及び生産技術、製品開発サポート	平成27年7月1日から会社存続期間中。	(注) 1

- (注) 1 対価として一定料率のロイヤリティーを受け取っております。
 2 対価として一定額及び一定料率のロイヤリティーを受け取っております。
 3 更新により平成30年6月30日以降も存続させることを、相手方と協議中であります。

(2) 技術受入契約

契約会社名	相手方の名称	国名	契約の内容	契約期間	対価
日本特殊塗料株式会社 (提出会社)	Autoneum Management AG	スイス	防音材料の製造、使用に関する技術供与	平成25年1月1日から平成30年6月30日まで。5年毎の契約の自動延長。	(注) 1 (注) 2

- (注) 1 対価として一定料率のロイヤリティーを支払っております。
 2 更新により平成30年6月30日以降も存続させることを、相手方と協議中であります。

5 【研究開発活動】

当社グループは、「創意工夫」を社是に掲げ、経営の基本理念・基本方針のもと、「安全」・「環境」をキーワードとして研究開発活動に取り組んでおります。

当社グループの研究開発体制は、経営基本戦略のもと当社の開発本部が、塗料関連事業、自動車製品関連事業の事業部門別戦略テーマに沿った研究開発活動を統括し、両事業部門の研究開発のシナジー効果を高めるとともに、市場ニーズの多様化に適応した新技術・新製品の開発を推進しております。また、国内外の関連会社、技術提携関係のグローバルパートナーと密接な連携をとりつつ、研究開発を進めております。

当連結会計年度におけるグループ全体の研究開発費の総額は16億6千1百万円であり、連結売上高に占める割合は2.9%であります。

各セグメントの主な研究開発活動の概要は、次のとおりであります。

(1) 塗料関連事業

塗料関連開発分野では、地球環境や安全性に配慮した環境対応型塗料、省エネに寄与する塗料や作業工程短縮を重点テーマとして製品開発に取り組みました。

航空機塗料の分野では、「JAXA（宇宙航空研究開発機構）次世代航空イノベーションハブ」の一員として、着氷防止塗料開発の共同研究を進めました。その成果として、航空機の運航における厳しい環境にも耐え得る超撥水性の塗膜を開発し、優れた着氷防止性能を有するシステムを確立しました。

防水材の分野では、環境規制のニーズに応えた特化則非該当（MOCA無配合）の製品を開発し、従来品からの切り替えを推進しています。

塗り床材の分野では、水性タイプの2製品「ユータックテクノONE」、「ユータックテクノ遮熱ONE」を開発しました。「ユータックテクノONE」は、市場のニーズに合わせ、従来の2液タイプから1液タイプに改良し、施工現場での作業性を大幅に改善しました。

内外装材、屋根用塗料の分野では、金属系やスレート系の各種下地に幅広く塗装可能な下塗り材「エポラオールプライマー」を開発しました。この製品は2液型弱溶剤系変性エポキシ塗料であることから、各種既存塗膜への影響を抑えられ、塗り替え用プライマーとしても適した万能下塗り塗料です。また、JASS 18 M-109規格に適合していることから、より優れた塗膜性能を有しています。

自動車アフターマーケット向けに、乗用車・トラック・バスや除雪車等特殊車両向けの床裏用防錆塗料「水性ガードコートEN」を開発しました。この製品は、市場の環境性能のニーズに応えた水性タイプの塗料で、従来の溶剤系塗料と同等の耐チップング性（跳ね石からボディを保護）、付着性を有した塗料です。

当連結会計年度における塗料関連事業の研究開発費の金額は、3億円であります。

(2) 自動車製品関連事業

自動車製品開発分野では、顧客先自動車メーカーのニーズに基づいた環境問題改善への貢献等を主眼としたものづくりに全力で取り組みました。特に自動車用防音材部品と塗材領域においては、軽量化やNV改善、車室内の快適性向上に結び付く新技術・新製品開発を展開し、量産車への採用を確実に進めることで、音・振動・熱をキーワードとした自動車部品サプライヤーとしての地位確立を目指しました。

①基礎研究開発

国内自動車メーカーとの先行開発や共同開発を進める中で蓄積した顧客ニーズや技術動向を踏まえた基礎研究開発に取り組みました。また、複数の大学や異業種企業と連携を図ることで、理論構築の確度・精度を上げつつ、新技術・新製品の確立に向けた研究開発を進めております。また、当社が得意とする繊維を活用した部品開発と合わせて繊維のリサイクルについても検討を進めています。

②部品開発

当社が今まで培ってきた音響設計のノウハウや数値解析技術を活用し、無駄の無い製品設計と適切な材料配合、生産工法の組み合わせによって競争力のある製品開発に取り組みました。

ダッシュパネルに装着されるインシュレーターは、「RIETER ULTRA LIGHT™」の軽量防音技術を基盤にした新技術が多くの国内およびグローバル車両に採用されました。今後もさらなる拡販が期待されます。フロアカーペット部品では、カーペット表皮の軽量化、低価格化の推進とともに繊維材を使用した高嵩高性を実現させる新工法が高く評価され、国内外において複数の自動車メーカーから採用をいただいております。

また、車両床下部に装着されるアンダーカバー部品は、独自の材料技術と生産工法が特長です。さらに技術提携先のオートニウムが持つ数値解析技術を活用することで、軽量かつ低価格、より顧客満足度の高い製品・仕様の提供が可能となります。車両軽量化や今後の車外騒音規制強化の取り組みに対しても非常に有効な部品であり、グローバルで採用が拡大しております。

③塗材開発

塗布型制振材では、拡大する顧客のニーズに合わせた薄膜化と低価格材料の開発により、継続受注に成功しました。また、海外の提携先企業との連携を強め、受注拡大に向けた活動に取り組んでおります。

防錆塗料関連では、海外の提携先企業との連携強化、製品開発力の強化により、アンダーボデーコーティング材やシーラントの採用が拡大しております。また、防錆塗料の軽量化による新規製品の導入に成功しております。

当連結会計年度における自動車製品関連事業の研究開発費の金額は、13億6千1百万円であります。

*RIETER ULTRA LIGHT ™ は、Autoneum Management AGの登録商標です。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

設備投資につきましては、国内外において、主に自動車製品関連事業での新規受注に伴う生産能力の増強や生産性の向上に向けた投資を行った結果、当連結会計年度における設備投資の総額（建設仮勘定を除く本勘定振替ベース）は85億2千3百万円となり、前期比16億9千万円増加いたしました。

投資内訳としましては、生産設備関連に78億2百万円、生産設備以外に7億2千万円の資金を投入いたしました。

生産設備の主な内容は、自動車製品関連事業の吸・遮音材他、生産設備の増強及び更新に37億9千9百万円、愛知工場の新工場建設に16億8千9百万円、金型の製作投資11億5千8百万円、塗料関連事業の製造設備の増強及び更新に1億3千2百万円となっております。

生産設備以外の主な内容は、研究開発部門における新製品開発のための試験機器等の取得及びITシステムへの投資であります。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

(平成30年3月31日現在)

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
			建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	その他	合計	
平塚工場 (神奈川県平塚市)	塗料関連 事業 自動車製品 関連事業	塗料設備 防音材設備	476	386	68 (28.7)	53	984	93 <37>
静岡工場 (静岡県御前崎市)	自動車製品 関連事業 塗料関連 事業	防音材設備	352	156	47 (20.3) [19.3]	236	792	76 <26>
愛知工場 (愛知県知立市)	自動車製品 関連事業	〃	2,538	1,145	723 (30.5) [2.5]	2,375	6,783	79 <33>
広島工場 (広島県東広島市)	自動車製品 関連事業	〃	203	67	55 (19.5)	83	410	26 <9>
九州工場 (佐賀県三養基郡みやき町)	塗料関連 事業	塗料設備	78	70	343 (26.9)	43	535	46 <9>
東九州工場 (福岡県行橋市)	自動車製品 関連事業	防音材設備	430	297	461 (38.7)	161	1,351	46 <21>
本社他 (東京都北区)	塗料関連 事業 自動車製品 関連事業	本社事務所 及び 研究開発設 備	975	104	1,855 (11.2) [1.0]	1,509	4,445	170 <6>

- (注) 1. 上記中帳簿価額「その他」は、工具器具備品、建設仮勘定及び無形固定資産であります。
 2. 上記中土地の欄の [] 内の数字は、連結会社以外からの賃借中の面積であり、外数で記載しております。
 3. 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は < > 内に外数で記載しております。
 4. 現在休止中の主要な設備はありません。

(2) 国内子会社

(平成30年3月31日現在)

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
				建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	その他	合計	
日晃工業㈱	坂東本社工場 (茨城県 坂東市)	自動車製品 関連事業	防音材 設備	1,174	2,326	621 (45.5) [0.2]	125	4,248	101 <8>
	八千代工場 (茨城県結城郡 八千代町)	〃	〃	140	43	20 (2.8) [3.4] <9.8>	3	207	34 <9>
㈱タカヒロ	本社工場 (広島県 東広島市)	自動車製品 関連事業	防音材 設備	72	320	— (—) [5.2]	3	395	13 <7>
大和特殊工機㈱	本社工場 (神奈川県 藤沢市)	自動車製品 関連事業	金型製造 設備	24	100	98 (2.3) [0.3]	28	251	26 <4>

- (注) 1. 上記中帳簿価額「その他」は、工具器具備品、建設仮勘定及び無形固定資産であります。
2. 上記中土地の欄の〔 〕内の数字は連結会社以外からの賃借中の面積を、< >内の数字は連結会社からの賃借中の面積を、外数で記載しております。
3. 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は< >内に外数で記載しております。
4. 現在休止中の主要な設備はありません。

(3) 在外子会社

(平成29年12月31日現在)

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
				建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	その他	合計	
武漢日特固防音 配件有限公司	中国 湖北省武漢市	自動車製品 関連事業	防音材 設備	1,248	1,861	— (—) [41.4]	602	3,712	276 <90>
PT. TUFFINDO NITTOKU AUTONEUM	インドネシア Jakarta	自動車製品 関連事業	防音材 設備	386	656	— (—) [44.6]	743	1,786	43 <261>

- (注) 1. 上記中帳簿価額「その他」は、工具器具備品、建設仮勘定及び無形固定資産であります。
2. 上記中土地の欄の〔 〕内の数字は、連結会社以外からの賃借中の面積であり、外数で記載しております。
3. 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は< >内に外数で記載しております。
4. 現在休止中の主要な設備はありません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

(平成30年3月31日現在)

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	投資予定額		資金調 達 方法	着手年月	完了予定 年月	完成後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)				
提出会社	愛知工場 (愛知県知立市)	自動車製品 関連事業	フロアカー ペット生産工 場・設備	5,553	3,924	自 己 資 金 及 借 入 金	平成29年 4月	平成30年 9月	生産能力35 %増

- (注) 1. 上記の金額に消費税等は含まれておりません。
2. 計画の見直し等により、総額、完了予定年月および完成後の増加能力が変更になっております。

(2) 重要な設備の除却等

経常的な設備の更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	90,000,000
計	90,000,000

② 【発行済株式】

種類	事業年度末 現在発行数(株) (平成30年3月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成30年6月22日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	23,611,200	23,611,200	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株で あります。
計	23,611,200	23,611,200	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

② 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

③ 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成19年4月1日～ 平成20年3月31日 (注)	5,000	23,611,200	1	4,753	1	4,258

(注) 新株予約権（ストック・オプション）の権利行使による増加であります。

(5) 【所有者別状況】

平成30年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	—	26	22	141	81	2	2,423	2,695	—
所有株式数(単元)	—	58,812	919	79,741	42,428	10	54,065	235,975	13,700
所有株式数の割合(%)	—	24.92	0.39	33.79	17.98	0.00	22.91	100.00	—

(注) 自己株式1,418,176株は「個人その他」に14,181単元及び「単元未満株式の状況」欄に76株を含めて記載しております。

(6) 【大株主の状況】

平成30年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(百株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
AUTONEUM HOLDING AG (常任代理人 東海東京証券株式会社)	SCHLOSSTALSTRASSE 43 CH-8406 WINTERTHUR SWITZERLAND (東京都中央区新川1-17-21)	31,151	14.04
関西ペイント株式会社	大阪市中央区今橋2-6-14	18,677	8.42
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	13,131	5.92
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	8,788	3.96
明治安田生命保険相互会社 (常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内2-1-1 (東京都中央区晴海1-8-12)	7,560	3.41
株式会社中外	愛知県名古屋市中区千代田5-21-11	7,267	3.27
トヨタ自動車株式会社	愛知県豊田市トヨタ町1	7,054	3.18
ニットク親和会	東京都北区王子3-23-2 日本特殊塗料株式会社内	5,132	2.31
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	5,119	2.31
株式会社ヒロタニ	広島県東広島市志和町志和堀1153-10	4,990	2.25
計	—	108,871	49.06

- (注) 1 提出会社は、自己株式14,181百株を保有しておりますが、上記の大株主から除いております。
 2 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであります。
 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) 13,131百株
 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) 5,119百株
 3 ニットク親和会の所有株式には、相互保有の無議決権株式が168百株含まれています。
 4 株式会社三菱東京UFJ銀行は、平成30年4月1日に株式会社三菱UFJ銀行に商号変更されています。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成30年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,418,100 (相互保有株式) 普通株式 215,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 21,964,400	219,644	—
単元未満株式	普通株式 13,700	—	—
発行済株式総数	23,611,200	—	—
総株主の議決権	—	219,644	—

(注) 単元未満株式数には当社所有の自己株式76株および相互保有株式69株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成30年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 日本特殊塗料株式会社	東京都北区王子3-23-2	1,418,100	—	1,418,100	6.01
(相互保有株式) 富士産業株式会社	神奈川県平塚市東八幡5- 11-3	163,200	—	163,200	0.69
(相互保有株式) 梅居産業株式会社	福岡県福岡市博多区榎田 1-7-42	35,000	16,800	51,800	0.22
計	—	1,616,300	16,800	1,633,100	6.92

(注) 他人名義で所有している理由等

所有理由	名義人の氏名又は名称	名義人の住所
加入持株会における共有持株数	ニットク親和会	東京都北区王子3-23-2 日本特殊塗料株式会社内

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(百万円)
当事業年度における取得自己株式	67	0
当期間における取得自己株式	104	0

(注) 当期間における取得自己株式には、平成30年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (百万円)	株式数(株)	処分価額の総額 (百万円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他 (—)	—	—	—	—
保有自己株式数	1,418,176	—	1,418,280	—

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成30年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

3【配当政策】

当社は、収益体質の強化およびキャッシュ・フローを重視した健全な財務内容の維持により、株主の皆様への利益還元の充実に努めることを経営上の重要課題と位置付けております。

一方、当社グループの事業を取り巻く経営環境は、価格競争に加えて環境対策等の高付加価値塗料の開発競争激化、電動化をはじめとした自動車の技術革新、自動車生産の海外シフト・グローバル化の進展といった大きな変化の中にあり、当社が将来にわたり競争力を確保し、収益の向上を図るためには、新製品や新技術等への研究開発投資・設備投資、グローバルで技術力・生産力を高める海外事業への投資、さらにはその礎となる人材への投資等を積極的かつ継続的に行っていく必要があります。

したがいまして、利益配分につきましては、中長期的な経営計画に基づき、安定配当の維持とこのような戦略的な投資に向けた内部資金の充実を中心に据えながら、財政状態、利益水準および配当性向等を総合的に勘案して決定することを基本方針としております。

当事業年度の剰余金の配当につきましては、上記の方針に基づき、1株当たり年間32円（中間配当金14円）の配当としております。

なお、当社の剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本的な方針としております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

また、当社は会社法第454条第5項に規定する中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当金 (円)
平成29年11月8日 取締役会決議	310	14
平成30年6月22日 定時株主総会決議	399	18

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第108期	第109期	第110期	第111期	第112期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
最高(円)	761	847	1,220	1,850	2,455
最低(円)	362	537	752	804	1,547

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部における実績であります。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成29年 10月	11月	12月	平成30年 1月	2月	3月
最高(円)	2,096	2,308	2,330	2,455	2,349	2,229
最低(円)	1,885	1,972	2,058	2,262	1,930	1,906

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部における実績であります。

5 【役員 の 状 況】

男性 13名 女性 0名 (役員のうち女性の比率 0%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(百株)
取締役会長	代表取締役	野 島 雅 寛	昭和20年5月1日生	昭和44年4月 当社入社 平成2年3月 当社自動車製品事業本部技術部長 平成7年3月 当社自動車製品事業本部副本部長 平成9年3月 当社塗料事業本部副本部長 平成9年6月 当社取締役 平成10年6月 当社塗料事業本部長 平成14年11月 当社常務取締役 平成17年6月 当社代表取締役社長 平成20年4月 当社開発本部長 平成21年2月 UGN, Inc. 代表取締役会長(現任) 平成22年3月 日特固(広州)防音配件有限公司 董事長(現任) 平成22年3月 天津日特固防音配件有限公司 董事長(現任) 平成22年7月 武漢日特固防音配件有限公司董事長(現任) 平成25年6月 当社代表取締役会長(現任)兼当社最高経営責任者(CEO)(現任)	(注)3	913
取締役社長	代表取締役	酒 井 万 喜 夫	昭和28年4月25日生	昭和53年4月 当社入社 平成9年3月 当社自動車製品事業本部技術部長 平成10年6月 当社自動車製品事業本部副本部長 平成12年4月 当社自動車製品事業本部副本部長兼愛知工場長 平成15年6月 当社取締役 平成15年6月 当社開発センター長 平成18年4月 当社開発本部長兼当社塗料事業本部副本部長 平成20年4月 当社自動車製品事業本部長 平成21年5月 ㈱ニットクシーケー代表取締役社長(現任) 平成21年6月 当社常務取締役 平成25年5月 ㈱タカヒロ代表取締役社長(現任) 平成25年6月 当社代表取締役社長(現任)兼当社最高執行責任者(COO)(現任)	(注)3	416
取締役専務	代表取締役 業務本部長 法令遵守室長	田 谷 純	昭和28年3月3日生	昭和51年4月 ㈱三菱銀行入社 平成17年1月 当社入社 業務本部財務部長 平成17年4月 当社業務本部副本部長 平成17年6月 当社取締役 平成19年4月 当社業務本部長(現任) 平成19年4月 当社法令遵守室長(現任) 平成19年4月 ニットク商工㈱代表取締役社長(現任) 平成19年5月 ㈱ニットク保険センター代表取締役社長(現任) 平成21年6月 当社常務取締役 平成22年5月 富士産業㈱代表取締役社長(現任) 平成25年6月 当社最高財務責任者(CFO)(現任) 平成27年6月 当社代表取締役専務(現任) 平成29年5月 日晃工業㈱代表取締役会長(現任)	(注)3	253
常務取締役	自動車製品事業 本部長 原価管理部長	遠 田 比 呂 志	昭和34年2月8日生	昭和58年4月 当社入社 平成12年4月 当社自動車製品事業本部設計部長 平成20年4月 当社自動車製品事業本部副本部長 平成21年3月 当社原価管理部長(現任) 平成21年7月 当社執行役員 平成22年4月 当社購買部長 平成24年6月 当社取締役 平成28年5月 大和特殊工機㈱代表取締役社長(現任) 平成29年4月 当社自動車製品事業本部長(現任) 平成30年4月 当社自動車製品事業本部設計部長(現任) 平成30年6月 当社常務取締役(現任)	(注)3	139

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(百株)
取締役	塗料事業本部長	水野賢治	昭和29年2月19日生	昭和47年4月 当社入社 平成12年4月 当社静岡工場長 平成19年4月 当社自動車製品事業本部副本部長兼愛知工場長 平成23年4月 当社塗料事業本部副本部長 平成23年6月 当社取締役(現任) 平成23年6月 当社塗料事業本部長(現任)	(注)3	132
取締役	開発本部長	山口久弥	昭和33年9月16日生	昭和57年4月 当社入社 平成12年4月 当社自動車製品事業本部技術部長 平成20年4月 当社自動車製品事業本部副本部長 平成21年7月 当社執行役員 平成22年4月 当社開発本部長(現任) 平成23年4月 当社愛知工場長 平成24年6月 当社取締役(現任)	(注)3	97
取締役	海外事業部長	安井芳彦	昭和31年3月29日生	昭和55年4月 当社入社 平成15年4月 当社自動車製品事業本部第1技術部長 平成18年4月 当社海外事業部長 平成20年4月 当社中国・アセアン業務室長付部長 日特固(広州)防音配件有限公司出向 平成21年7月 当社執行役員 平成25年4月 当社海外事業部長(兼)中国・アセアン業務室長 平成26年6月 当社取締役(現任) 平成27年4月 当社海外事業部長(現任)	(注)3	86
取締役	塗料事業本部 東日本エリア 営業統括	土井義彦	昭和36年10月16日生	昭和55年4月 当社入社 平成14年4月 当社塗料事業本部東京営業所長 平成18年5月 ニットクメンテ(株)代表取締役社長(現任) 平成22年4月 当社塗料事業本部副本部長 平成24年7月 当社執行役員 平成25年4月 当社塗料事業本部東日本エリア営業統括(現任) 平成29年6月 当社取締役(現任)	(注)3	77
取締役	非常勤	奈良道博	昭和21年5月17日生	昭和49年4月 弁護士登録 平成16年6月 当社監査役 平成18年4月 第一東京弁護士会会長 平成18年4月 日本弁護士連合会副会長 平成25年6月 セイコーエプソン(株)社外監査役 平成26年6月 王子ホールディングス(株)社外取締役(現任) 平成27年6月 当社取締役(現任) 平成28年6月 セイコーエプソン(株)社外取締役(監査等委員)(現任)	(注)3	217
取締役	非常勤	矢部耕三	昭和37年1月22日生	平成3年4月 弁護士登録 平成12年8月 イリノイ大学法科大学院非常勤教授(現任) 平成13年1月 ユアサハラ法律特許事務所パートナー(現任) 平成14年4月 弁理士登録 平成17年9月 中央大学大学院法務研究科(法科大学院)客員講師 平成21年4月 弁理士試験考査委員 平成22年6月 一般社団法人日本国際知的財産保護協会業務執行理事(現任) 平成29年6月 当社取締役(現任)	(注)3	1

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(百株)
監査役	常勤	川名 宏一	昭和31年11月27日生	昭和61年10月 当社入社 平成10年4月 当社海外事業部長 平成21年7月 当社執行役員 平成24年4月 当社海外事業部長(兼)中国・アジアン業務室長 平成25年4月 当社社長室長 平成27年4月 当社社長付部長 平成27年6月 当社監査役(現任)	(注)4	102
監査役	非常勤	高橋 善樹	昭和34年4月13日生	平成5年4月 弁護士登録 平成26年6月 当社監査役(現任)	(注)5	20
監査役	非常勤	松藤 斉	昭和27年3月3日生	昭和57年4月 公認会計士登録 平成28年6月 当社監査役(現任) 平成28年8月 日本オラクル(株)社外取締役(監査委員)(現任)	(注)5	6
計						2,459

- (注) 1 取締役 奈良道博及び矢部耕三は、社外取締役であります。
- 2 監査役 高橋善樹及び松藤斉は、社外監査役であります。
- 3 取締役の任期は、平成29年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成31年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 4 監査役の任期は、平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成31年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 5 監査役の任期は、平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成32年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 6 当社は、法令に定める監査役の数に満たない場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠監査1名を選任しております。補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(百株)
田中 耕一郎	昭和40年7月6日	昭和62年10月 サンワ・等松青木監査法人(現有限責任監査法人トーマツ)入所 平成3年3月 公認会計士登録 平成15年12月 監査法人トーマツコーポレートファイナンス部(現デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザーリー合同会社)パートナー・執行役員 平成17年2月 税理士登録 平成26年7月 田中総合会計事務所設立 所長(現任) 平成27年3月 東洋炭素(株)社外監査役(現任) 平成27年4月 埼玉工業(株)社外監査役(現任) 平成29年3月 (株)小田原エンジニアリング社外監査役(現任)	(注)	—

(注) 補欠監査役の任期は、就任した時から、退任した監査役の任期の満了の時までであります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

①コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、コンプライアンスが企業の存続、発展に必要な不可欠であるとの認識のもと、取締役及び使用人が健全な社会規範のもとにその職務を遂行するため「日本特殊塗料行動規範」を定めてコンプライアンスの充実を図るとともに、企業の持続的発展と企業価値の最大化に努めております。

この目的のため、効率的で透明性のある経営を行うことが重要であると認識し、コーポレート・ガバナンスの強化を経営の重要課題の一つと位置付け、株主をはじめとするステークホルダーから信頼され、魅力ある企業の実現を目指しております。

②企業統治の体制

(イ) 企業統治の体制の概要

当社では、取締役会と監査役会の枠組みの中で、適正かつ効率的な経営意思決定と取締役の職務執行の監督を行っております。

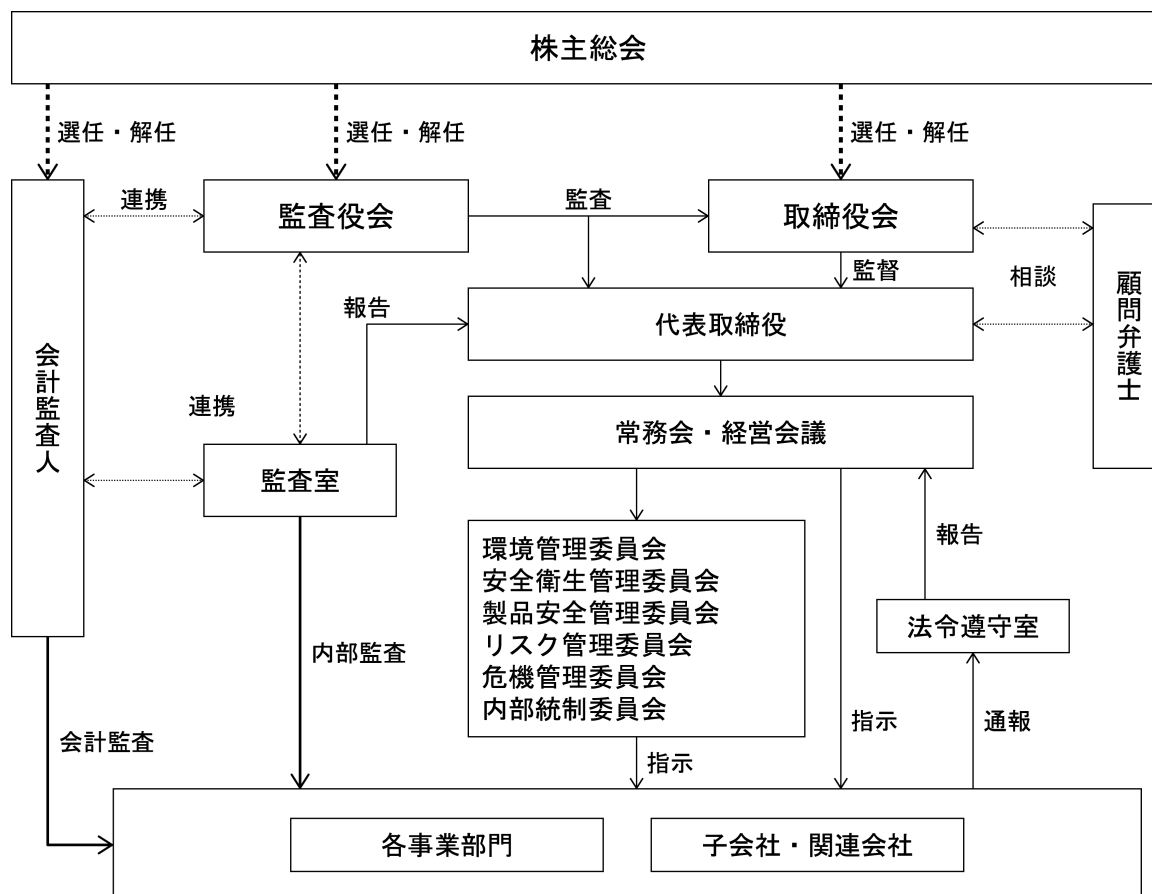
取締役会は、取締役10名（うち社外取締役2名）で構成されており、原則月1回開催するほか、必要に応じて適宜臨時に開催し、業務執行の状況を審議するとともに、法令で定められた事項や経営の重要事項を決定しております。これは効率的な意思決定にとって適正な水準であるとともに、経営の客観性と透明性の確保にとって適当な構成であると考えております。

また、取締役会の経営監督機能をより強化し、経営効率の向上や機動的な意思決定を図るため、執行役員制度を導入しております。さらに、取締役並びに常勤監査役が出席する常務会を毎週開催し、業務執行に関する基本的事項及び重要事項に係る意思決定を機動的に行うとともに、執行役員を加えたメンバーによる経営企画会議を適宜開催し、特に絞り込んだ重要なテーマについて議論を行っております。

監査役会は、社外監査役2名を含む3名で構成され原則月1回開催し、監査に関する重要事項について報告、協議、決議を行っております。各監査役は監査役会が定めた監査役監査基準に基づき、取締役会への出席や子会社を含む業務執行の調査等を通じ、取締役の職務執行の監査を行っております。

(ロ) 内部統制システムの整備の状況

当社のコーポレート・ガバナンス体制の概要、主な機関及び内部統制システムの関係は、以下のとおりであります。



当社では、業務の有効性・効率性を図るとともに財務報告の信頼性を確保し、コンプライアンスを徹底するため、以下の内部統制システムの構築とシステムが円滑に機能するよう体制整備に努めております。

i 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

コンプライアンスが企業の存続、発展に必要不可欠であるとの認識のもと、取締役及び使用人が法令及び定款を遵守し、健全な社会規範のもとにその職務を遂行するため「日本特殊塗料行動規範」及び法令遵守規程を定めております。

内部監査部門として業務執行部門から独立した監査室を置くとともに、コンプライアンスの統括部署として法令遵守室を設置し、コンプライアンス体制の構築・強化を図っております。

ii 情報の保存及び管理に対する体制

情報セキュリティや内部情報管理に関する諸規程、個人情報保護に関する基本方針を定めて、適正な情報管理に努めております。

iii 企業集団における業務の適正を確保するための体制

企業集団における業務の適正を確保するため、「日本特殊塗料行動規範」を基礎に、各社が取締役及び使用人の行動指針となる行動規範や諸規程を定め、コンプライアンス体制の構築・強化を図っております。

また、グループ会社の経営管理については、各社の経営の自主性及び独立性を尊重しつつ、グループ会社の健全性及び効率性の向上を図るため、関係会社管理規程を定めております。グループ会社における経営上の重要な事項については、関係会社管理規程に基づき、当社の承認又は当社への報告を求めるとともに、各社は業務執行状況・財務状況等を定期的に当社に報告しており、あわせて各担当取締役が総合的な助言・指導を行っております。

また、財務報告の信頼性を確保するため、金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制報告制度に適切に対応しております。

(ハ) リスク管理体制の整備の状況

当社では、法令、品質、環境、災害などのリスクについて、リスク管理体制の基礎として危機管理規程を定め、個々のリスクについて各委員会並びに管理責任者を決定し、同規程に従ったリスク管理体制を構築しております。また、規程・マニュアル等の整備、従業員に対する教育・啓蒙活動等を継続して行っております。

化学メーカーとして重要な課題である「環境」と「安全」については、そのリスクを専管する組織として、「環境管理委員会」「安全衛生管理委員会」「製品安全管理委員会」等を設け、担当部門が専門的な立場から、環境面、安全・衛生面、製品安全面のモニタリング、対応等についてレビューを行っております。

また、各部署及びグループ会社で認識されたリスクについては、リスク管理委員会を定期的に開催して、その評価、分析を実施し、リスクの把握・管理に努めております。不測の事態が発生した場合には、社長を本部長とする対策本部を設置し、迅速かつ適切な対応により事態の把握と損害の発生・拡大を防止する体制を整えるべく、事業継続マネジメントシステム（BCMS）の構築を推進するとともに想定訓練の実施により意識付けの向上を図っております。

(ニ) 責任限定契約の内容の概要

当社と取締役（業務執行取締役等を除く）及び監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任について、法令に定める最低責任限度額を限度とする責任限定契約を締結しております。

③内部監査及び監査役監査の状況

当社は、内部管理体制の適正性を監査する部署として社長直轄の監査室（2名、うち1名は公認内部監査人）を設置しております。監査室は、業務の適正性と効率性の向上を目的に、当社グループ全体の内部統制の整備・運用状況、内部管理体制の有効性等について、監査を実施しております。

また、当社は監査役制度を採用しております。監査役会は、監査役3名（うち社外監査役2名・非常勤監査役）で構成されており、原則月1回の監査役会を開催しております。

監査役は、取締役会、常務会、その他経営上の重要な会議に出席し、必要に応じて意見を述べるほか、重要文書の閲覧や職務執行状況の聴取等を随時行い、取締役の業務執行について適法性、妥当性を監査しております。会計監査人からは、監査計画とその結果についての報告・説明を受けるとともに、適宜その監査に立会い、また、意見交換の機会を年数回設ける等、適切な連携を図っております。また、監査室とは必要に応じて情報・意見交換を行い、監査の効率化を図っております。

④会計監査の状況

当社の監査証明に係る会計監査人として、新日本有限責任監査法人との間で監査契約を締結しており、会社法監査及び金融商品取引法監査を受けるとともに、社外監査役を含む監査役や監査室との間で、監査計画の説明をはじめ、監査結果の報告及び意見交換等を定期的実施しております。

当事業年度において業務を執行した公認会計士は、同監査法人に所属する麻生和孝氏及び中野強氏の2名（いずれも指定有限責任社員・業務執行社員）であり、継続監査年数については、全員7年以内であるため、記載を省略しております。なお、会計監査業務に係る補助者は、公認会計士3名、その他6名であります。

⑤ 社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は2名、社外監査役は2名であります。

社外取締役の奈良道博氏は、弁護士としての専門的見地から当社の経営戦略に対する助言・提言をいただき、当社意思決定の客観性及びコーポレート・ガバナンスの向上に活かしていただけるものと判断し、社外取締役に選任しております。なお、同氏は、平成16年6月から平成26年6月までの10年間、当社の社外監査役でありました。

社外取締役の矢部耕三氏は、弁護士・弁理士としての経験・見識を活かし、経営の透明性、コーポレート・ガバナンスの向上に資する専門的かつ客観的な助言・提言をいただけるものと判断し、社外取締役に選任しております。

社外監査役の高橋善樹氏は、弁護士として企業法務に関する豊富な経験と卓越した見識、また会計に関する知見を有しており、専門的な知識・経験を当社の経営の健全性確保及びコーポレート・ガバナンスの向上に活かしていただけるものと判断し、社外監査役に選任しております。

社外監査役の松藤斉氏は、公認会計士として長年の実務経験があり、財務及び会計に関する高い専門性と豊富な経験を当社の経営の健全性確保及びコーポレート・ガバナンスの向上に活かしていただけるものと判断し、社外監査役に選任しております。

なお、社外取締役及び社外監査役の全員は、当社との間に特別の利害関係はなく、一般株主と利益相反が生じる恐れがないことから、当社は、社外取締役及び社外監査役の全員を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

当社は、社外取締役及び社外監査役を選任するための独立性に関する具体的な基準又は方針を設けておりませんが、候補者の選定にあたっては、法律、財務、会計等に関する専門知識や企業経営に関する経験・見識等を勘案の上、法令や東京証券取引所の定める独立役員の独立性に関する判断基準等に則り、社外取締役及び社外監査役として適切に職務を遂行できる者を個別に判断し、選定しております。

また、当社は、社外取締役が取締役会等を通じて内部統制の状況を把握し、客観的かつ公正な立場から必要に応じて助言・提言できる体制を整えております。社外監査役は、独立性・中立性の観点から客観的に監査を実施するとともに、定期的にとり締役会及び監査役会に出席し、豊富な経験と見識から取締役会の業務執行の適法性を監査しております。また、会計監査人や監査室と定期的な情報交換・意見交換を行い、監査の実効性の向上を図っております。

⑥ 役員の報酬等

(イ) 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額 (百万円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	292	217	—	74	—	8
監査役 (社外監査役を除く)	21	16	—	5	—	1
社外役員	22	16	—	6	—	4

(注) 1 当事業年度末現在の人数は、取締役10名（うち社外取締役2名）、監査役3名（うち社外監査役2名）であります。

2 役員ごとの報酬等の総額につきましては、1億円以上を支給している役員は該当しませんので記載を省略しております。

(ロ) 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針

取締役及び監査役の報酬については、株主総会の決議により取締役全員及び監査役全員のそれぞれの報酬総額の最高限度額を決定しております。

各取締役の報酬は、取締役会の授権を受けた代表取締役が当社の定める一定の基準に基づき決定し、各監査役の報酬は、監査役会の協議により決定いたします。

⑦株主総会決議事項を取締役会で決議することができる事項

(イ) 自己株式の取得

当社は、自己の株式の取得について、経済情勢の変化に対応して財務政策等の経営諸施策を機動的に遂行することを可能とするため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

(ロ) 中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を可能とするため、毎年9月30日を基準日として、取締役会の決議をもって中間配当ができる旨を定款に定めております。

(ハ) 取締役及び監査役の実任免除

当社は、取締役及び監査役が期待される役割を十分に発揮できるよう、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役及び監査役（取締役及び監査役であった者を含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨を定款に定めております。

⑧取締役の定数

当社の取締役は15名以内とする旨を定款に定めております。

⑨取締役の選任決議要件

当社は、取締役の選任決議について、株主総会において議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び累積投票によらない旨を定款に定めております。

⑩株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うことを目的として、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

⑪株式の保有状況

(イ) 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数： 41銘柄

貸借対照表計上額の合計額： 10,324百万円

(ロ) 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的
(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表 計上額 (百万円)	保有目的
関西ペイント(株)	1,090,000	2,575	取引関係の強化
Autoneum Holding AG	53,495	1,764	取引関係の強化
トヨタ自動車(株)	222,675	1,345	取引関係の強化
Rieter Holding AG	53,495	1,263	取引関係の強化
ショーボンドホールディングス(株)	150,000	734	取引関係の強化
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	535,810	374	取引関係の強化
大日精化工業(株)	309,200	232	取引関係の強化
(株)大阪ソーダ	319,000	158	取引関係の強化
日本触媒(株)	20,000	151	取引関係の強化
高砂熱学工業(株)	92,000	144	取引関係の強化
日産自動車(株)	125,840	135	取引関係の強化
(株)日阪製作所	137,000	125	取引関係の強化
本田技研工業(株)	35,326	118	取引関係の強化
富士重工業(株)	25,177	102	取引関係の強化
(株)ADEKA	63,000	102	取引関係の強化
(株)奥村組	140,000	94	取引関係の強化
三洋化成工業(株)	18,620	87	取引関係の強化
(株)ユーシン	83,000	60	取引関係の強化
(株)中外	210,000	55	取引関係の強化
新日本理化(株)	270,000	40	取引関係の強化
三光(株)	100,000	39	取引関係の強化
(株)オーウェル	100,000	32	取引関係の強化
日産車体(株)	30,000	30	取引関係の強化
(株)三井住友フィナンシャル・グループ	6,385	25	取引関係の強化
ハリマ化成グループ(株)	33,000	25	取引関係の強化
(株)ヒロタニ	14,000	21	取引関係の強化
中部加工(株)	17,000	13	取引関係の強化
東京海上ホールディングス(株)	2,000	9	取引関係の強化
パナソニック(株)	7,000	8	取引関係の強化
いすゞ自動車(株)	5,500	8	取引関係の強化

(注) 富士重工業(株)は平成29年4月1日付で(株)SUBARUへと社名変更しております。

(当事業年度)
 特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表 計上額 (百万円)	保有目的
関西ペイント(株)	1,090,000	2,701	取引関係の強化
Autoneum Holding AG	53,495	1,548	取引関係の強化
トヨタ自動車(株)	222,675	1,519	取引関係の強化
ショーボンドホールディングス(株)	150,000	1,177	取引関係の強化
Rieter Holding AG	53,495	1,113	取引関係の強化
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	535,810	373	取引関係の強化
大日精化工業(株)	61,840	271	取引関係の強化
(株)大阪ソーダ	63,800	179	取引関係の強化
日本触媒(株)	20,000	144	取引関係の強化
本田技研工業(株)	39,370	144	取引関係の強化
(株)日阪製作所	137,000	141	取引関係の強化
日産自動車(株)	125,840	138	取引関係の強化
(株)ADEKA	63,000	120	取引関係の強化
(株)奥村組	28,000	117	取引関係の強化
三洋化成工業(株)	18,620	92	取引関係の強化
(株)SUBARU	25,177	87	取引関係の強化
新日本理化(株)	270,000	69	取引関係の強化
(株)ユーシン	83,000	62	取引関係の強化
(株)中外	210,000	55	取引関係の強化
三光(株)	100,000	39	取引関係の強化
日産車体(株)	30,000	33	取引関係の強化
(株)オーウェル	100,000	32	取引関係の強化
(株)三井住友フィナンシャル・グループ	6,385	28	取引関係の強化
ハリマ化成グループ(株)	33,000	26	取引関係の強化
(株)ヒロタニ	14,000	21	取引関係の強化
中部加工(株)	17,000	13	取引関係の強化
パナソニック(株)	7,000	10	取引関係の強化
伊藤忠商事(株)	5,000	10	取引関係の強化
東京海上ホールディングス(株)	2,000	9	取引関係の強化
いすゞ自動車(株)	5,500	8	取引関係の強化

(ハ) 保有目的が純投資目的である投資株式
 該当事項はありません。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	35	—	36	—
連結子会社	—	—	—	—
計	35	—	36	—

② 【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度

当社の在外連結子会社は、当社の会計監査人である新日本有限責任監査法人与同一のネットワークに属しているアーンストアンドヤングに対して、6百万円支払っております。

当連結会計年度

当社の在外連結子会社は、当社の会計監査人である新日本有限責任監査法人与同一のネットワークに属しているアーンストアンドヤングに対して、6百万円支払っております。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度及び当連結会計年度ともに、該当事項はありません。

④ 【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、当社の事業規模及び監査日数等を勘案した上で決定しております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下、「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、企業会計等の内容を適切に把握し、連結財務諸表等を適正に作成できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、監査法人等が主催する研修会への参加並びに会計専門誌の定期購読等を行っております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,572	7,760
受取手形及び売掛金	11,193	※6 12,981
電子記録債権	2,448	※6 3,974
商品及び製品	1,502	1,573
仕掛品	578	600
原材料及び貯蔵品	1,061	1,138
繰延税金資産	401	448
その他	1,064	1,355
貸倒引当金	△7	△7
流動資産合計	26,815	29,825
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	※2, ※3 4,832	※2, ※3 8,234
機械装置及び運搬具（純額）	※2, ※3 5,992	※2, ※3 7,555
土地	※3 4,292	※3 4,695
建設仮勘定	1,907	2,651
その他（純額）	※2 1,875	※2 1,907
有形固定資産合計	18,899	25,044
無形固定資産		
その他	1,053	1,191
無形固定資産合計	1,053	1,191
投資その他の資産		
投資有価証券	※1, ※3 18,385	※1, ※3 19,117
長期貸付金	268	322
繰延税金資産	68	102
その他	※1 1,525	※1 1,475
貸倒引当金	△28	△35
投資その他の資産合計	20,218	20,981
固定資産合計	40,171	47,217
資産合計	66,987	77,043

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,292	※6 12,412
短期借入金	※3 2,748	※3 3,067
リース債務	113	47
未払法人税等	322	510
役員賞与引当金	80	91
その他	4,219	※6 6,586
流動負債合計	17,776	22,715
固定負債		
長期借入金	※3 3,946	※3 4,966
リース債務	231	181
退職給付に係る負債	4,230	4,090
繰延税金負債	1,222	1,373
その他	40	40
固定負債合計	9,671	10,653
負債合計	27,447	33,368
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,753	4,753
資本剰余金	4,362	4,237
利益剰余金	22,853	26,103
自己株式	△497	△499
株主資本合計	31,472	34,594
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,037	5,383
為替換算調整勘定	428	309
退職給付に係る調整累計額	△175	△48
その他の包括利益累計額合計	5,290	5,645
非支配株主持分	2,775	3,434
純資産合計	39,539	43,674
負債純資産合計	66,987	77,043

② 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
売上高	47,998	57,260
売上原価	※1 36,737	※1 44,663
売上総利益	11,261	12,597
販売費及び一般管理費	※2, ※3 8,098	※2, ※3 9,311
営業利益	3,162	3,286
営業外収益		
受取利息	42	46
受取配当金	180	202
不動産賃貸料	31	33
持分法による投資利益	3,519	2,371
その他	57	92
営業外収益合計	3,831	2,746
営業外費用		
支払利息	99	110
為替差損	117	18
その他	36	22
営業外費用合計	253	151
経常利益	6,741	5,881
特別利益		
固定資産売却益	-	※4 0
受取保険金	0	23
投資有価証券売却益	146	101
特別利益合計	146	125
特別損失		
固定資産処分損	※5 170	※5 209
減損損失	-	※6 28
投資有価証券評価損	0	-
特別損失合計	170	237
税金等調整前当期純利益	6,717	5,769
法人税、住民税及び事業税	874	1,152
法人税等調整額	448	△134
法人税等合計	1,323	1,018
当期純利益	5,393	4,750
非支配株主に帰属する当期純利益	615	790
親会社株主に帰属する当期純利益	4,778	3,960

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月 31日)
当期純利益	5,393	4,750
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	808	336
為替換算調整勘定	△195	36
退職給付に係る調整額	164	123
持分法適用会社に対する持分相当額	△515	△128
その他の包括利益合計	※1 262	※1 367
包括利益	5,656	5,118
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	5,126	4,314
非支配株主に係る包括利益	530	803

③【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,753	4,362	18,947	△496	27,567
当期変動額					
剰余金の配当			△532		△532
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動					-
親会社株主に帰属する当期純利益			4,778		4,778
自己株式の取得				△0	△0
連結子会社の増加に伴う減少			△339		△339
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					-
当期変動額合計	-	-	3,905	△0	3,905
当期末残高	4,753	4,362	22,853	△497	31,472

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	4,220	1,061	△339	4,942	1,725	34,235
当期変動額						
剰余金の配当						△532
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動						-
親会社株主に帰属する当期純利益						4,778
自己株式の取得						△0
連結子会社の増加に伴う減少						△339
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	816	△633	164	348	1,050	1,398
当期変動額合計	816	△633	164	348	1,050	5,304
当期末残高	5,037	428	△175	5,290	2,775	39,539

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,753	4,362	22,853	△497	31,472
当期変動額					
剰余金の配当			△710		△710
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		△125			△125
親会社株主に帰属する当期純利益			3,960		3,960
自己株式の取得				△2	△2
連結子会社の増加に伴う減少					-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					-
当期変動額合計	-	△125	3,250	△2	3,121
当期末残高	4,753	4,237	26,103	△499	34,594

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	5,037	428	△175	5,290	2,775	39,539
当期変動額						
剰余金の配当						△710
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動						△125
親会社株主に帰属する当期純利益						3,960
自己株式の取得						△2
連結子会社の増加に伴う減少						-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	346	△118	127	354	658	1,012
当期変動額合計	346	△118	127	354	658	4,134
当期末残高	5,383	309	△48	5,645	3,434	43,674

④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	6,717	5,769
減価償却費	2,291	2,945
減損損失	-	28
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	50	39
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△75	7
受取利息及び受取配当金	△223	△248
支払利息	99	110
持分法による投資損益 (△は益)	△3,519	△2,371
固定資産売却損益 (△は益)	4	△0
固定資産処分損益 (△は益)	165	209
投資有価証券売却損益 (△は益)	△146	△101
受取保険金	△0	△23
売上債権の増減額 (△は増加)	△350	△3,286
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△315	△206
仕入債務の増減額 (△は減少)	1,079	2,117
その他	△68	322
小計	5,709	5,311
利息及び配当金の受取額	2,557	1,924
利息の支払額	△97	△116
保険金の受取額	0	23
法人税等の支払額	△1,295	△942
法人税等の還付額	52	35
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,926	6,235
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△9	-
定期預金の払戻による収入	102	-
有形及び無形固定資産の取得による支出	△6,321	△7,255
有形及び無形固定資産の売却による収入	0	5
投資有価証券の取得による支出	△13	△13
投資有価証券の売却による収入	218	166
関係会社株式の取得による支出	-	△26
貸付けによる支出	△5	△69
貸付金の回収による収入	1	-
その他	△30	△133
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,055	△7,326

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	30	264
長期借入れによる収入	2,987	2,618
長期借入金の返済による支出	△1,545	△1,557
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△528	△707
非支配株主からの払込みによる収入	442	-
非支配株主への配当金の支払額	△58	△105
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	-	△165
その他	△117	△114
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,210	232
現金及び現金同等物に係る換算差額	△21	46
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,059	△812
現金及び現金同等物の期首残高	6,073	8,555
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	422	-
現金及び現金同等物の期末残高	※1 8,555	※1 7,743

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社数 9社

ニットクメンテ㈱、ニットク商工㈱、㈱ニットク保険センター、大和特殊工機㈱、日晃工業㈱、㈱タカヒロ、㈱ニットクシーケー、武漢日特固防音配件有限公司、PT. TUFFINDO NITTOKU AUTONEUM

(2) 非連結子会社数 1社

Uni-NTF, Inc.

連結の範囲から除いた理由

非連結子会社は、小規模会社であり、合計の総資産・売上高・当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用会社は下記8社であります。

非連結子会社

Uni-NTF, Inc.

関連会社

富士産業㈱、梅居産業㈱、UGN, Inc.、SNC Sound Proof Co., Ltd.、日特固(広州)防音配件有限公司、天津日特固防音配件有限公司、SRN Sound Proof Co., Ltd.

(2) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社のうち主要な会社等の名称

Autoneum Nittoku Sound Proof Products India Pvt. Ltd. 他

持分法を適用しない理由

持分法を適用していない会社は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、武漢日特固防音配件有限公司及びPT. TUFFINDO NITTOKU AUTONEUMの決算日は12月31日であります。連結財務諸表の作成にあたっては、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。なお、その他の連結子会社の決算日は連結決算日と同一であります。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

その他有価証券

・時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

・時価のないもの

移動平均法による原価法

② デリバティブ取引により生ずる債権及び債務

時価法

- ③ たな卸資産
主として総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）
- (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法
- ① 有形固定資産（リース資産を除く）
主として定額法によっております。
なお、主な耐用年数は次のとおりであります。
- | | |
|-----------|--------|
| 建物及び構築物 | 10～50年 |
| 機械装置及び運搬具 | 8～9年 |
- ② 無形固定資産（リース資産を除く）
定額法によっております。
なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。
- ③ リース資産
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。
- (3) 重要な引当金の計上基準
- ① 貸倒引当金
売掛金等の債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
- ② 役員賞与引当金
役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当連結会計年度に見合う分を計上しております。
- (4) 退職給付に係る会計処理の方法
- ① 退職給付見込額の期間帰属方法
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
- ② 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法
過去勤務費用は、主としてその発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。
数理計算上の差異は、主として各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日次連結会計年度から費用処理することとしております。
- ③ 小規模企業等における簡便法の採用
一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。
- (5) 重要な収益及び費用の計上基準
完成工事高及び完成工事原価の計上基準
- ① 当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事
工事進行基準（工事の進捗率の見積は原価比例法）
- ② その他の工事
工事完成基準
- (6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準
外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。
なお、在外子会社等の資産及び負債、収益及び費用は、在外子会社等の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上しております。

(7) 重要なヘッジ会計の方法

① ヘッジ会計の方法

原則として繰延ヘッジ処理によっております。なお、特例処理の要件を満たしている金利スワップ取引については、特例処理によっております。

② ヘッジ手段と対象

ヘッジ手段… 金利スワップ取引

ヘッジ対象… 借入金の金利

③ ヘッジ方針

借入債務の金利変動リスクをヘッジする目的で行っております。

④ ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ手段のキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ対象のキャッシュ・フロー変動の累計を比較して有効性を判定しております。ただし、金利スワップ取引については、特例処理の要件に該当するかの判断をもって、ヘッジ有効性の評価に代えております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(9) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税は税抜き方式によっております。

(表示方法の変更)

(連結貸借対照表)

前連結会計年度において、「受取手形及び売掛金」に含めていた「電子記録債権」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「受取手形及び売掛金」に表示していた13,642百万円は、「受取手形及び売掛金」11,193百万円、「電子記録債権」2,448百万円として組み替えております。

(連結貸借対照表関係)

※1 非連結子会社及び関連会社に係る注記

各科目に含まれている非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
投資有価証券(株式)	8,457百万円	8,784百万円
その他(出資金)	1,244 "	1,252 "

※2 有形固定資産から控除した減価償却累計額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
	32,643百万円	34,035百万円

※3 担保資産

(1) 担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
建物及び構築物	497百万円	482百万円
機械装置及び運搬具	111 "	107 "
土地	733 "	733 "
投資有価証券(注)	2,600 "	2,798 "
計	3,943 "	4,122 "

(注) 担保に供している投資有価証券のうち、前連結会計年度1,875百万円及び当連結会計年度1,979百万円は、貸出コミットメント契約に係るものであります。

上記有形固定資産のうち、工場財団抵当に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
建物及び構築物	104百万円	133百万円
機械装置及び運搬具	111 "	107 "
土地	68 "	68 "
計	284 "	308 "

(2) 担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
短期借入金	640百万円	618百万円
その他(従業員預り金)	376 "	— "
長期借入金	2,464 "	3,183 "
計	3,481 "	3,802 "

上記のうち、工場財団抵当に対応する債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
短期借入金	588百万円	566百万円
長期借入金	2,226 "	2,973 "
計	2,815 "	3,540 "

4 保証債務

次の会社等の金融機関からの借入やリース債務に対し、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
Autoneum Nittoku Sound Proof Products India Pvt.Ltd. (株)エヌ・シー・エス	37百万円	11百万円
	63 "	55 "
計	100 "	67 "

- 5 当社及び連結子会社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。

当連結会計年度末における当座貸越契約及び貸出コミットメントに係る借入未実行残高等は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
当座貸越極度額及び貸出コミットメントの総額	5,953百万円	6,084百万円
借入実行残高	1,235 "	1,407 "
差引額	4,718 "	4,677 "

- ※6 期末日満期手形等の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、当連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形等を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
受取手形	一百万円	165百万円
電子記録債権	— "	85 "
支払手形	— "	387 "
設備関係支払手形	— "	87 "

(連結損益計算書関係)

- ※1 通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性の低下による簿価切下額（△は戻入額）は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
売上原価	5百万円	49百万円

- ※2 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
給料手当	1,939百万円	2,060百万円
運搬費	1,353 "	1,641 "
研究開発費	1,509 "	1,661 "
役員賞与引当金繰入額	80 "	91 "
退職給付費用	145 "	148 "

- ※3 一般管理費に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
	1,509百万円	1,661百万円

※4 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
機械装置及び運搬具	一百万円	0百万円
計	— "	0 "

※5 固定資産処分損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
建物及び構築物除却損	49百万円	96百万円
機械装置及び運搬具除却損	91 "	90 "
機械装置及び運搬具売却損	4 "	0 "
その他(工具、器具及び 備品等) 除却損	15 "	22 "
その他(借地権等) 除却損	8 "	— "
計	170 "	209 "

※6 減損損失

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

(単位：百万円)

場所	用途	種類	金額
旧本社(東京都北区)	遊休資産	建物及び構築物	28

当社グループは、原則として、事業用資産については、管理会計単位を基準としてグルーピングを行っており、遊休資産については個別資産ごとにグルーピングを行っております。

当連結会計年度において、事業の用に供していない遊休資産につき、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(28百万円)として特別損失に計上しております。

なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、備忘価額により評価しております。

(連結包括利益計算書関係)

※1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	1,311百万円	587百万円
組替調整額	△146 "	△101 "
税効果調整前	1,165百万円	485百万円
税効果額	△356 "	△148 "
その他有価証券評価差額金	808百万円	336百万円
為替換算調整勘定		
当期発生額	△195百万円	36百万円
組替調整額	— "	— "
税効果調整前	△195百万円	36百万円
税効果額	— "	— "
為替換算調整勘定	△195百万円	36百万円
退職給付に係る調整額		
当期発生額	143百万円	90百万円
組替調整額	94 "	86 "
税効果調整前	237百万円	177百万円
税効果額	△73 "	△54 "
退職給付に係る調整額	164百万円	123百万円
持分法適用会社に対する持分相当額		
当期発生額	△515百万円	△128百万円
その他の包括利益合計	262百万円	367百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	23,611,200	—	—	23,611,200

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	1,500,521	246	—	1,500,767

(変動事由の概要)

単元未満株式の買取りによる増加 157株

持分法適用会社が保有している自己株式(当社株式)の当社帰属分の増加 89株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成28年6月23日 定時株主総会	普通株式	310	14	平成28年3月31日	平成28年6月24日
平成28年11月9日 取締役会	普通株式	221	10	平成28年9月30日	平成28年11月25日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年6月23日 定時株主総会	普通株式	399	利益剰余金	18	平成29年3月31日	平成29年6月26日

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	23,611,200	—	—	23,611,200

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	1,500,767	1,371	—	1,502,138

(変動事由の概要)

単元未満株式の買取りによる増加 67株

持分法適用会社が保有している自己株式(当社株式)の当社帰属分の増加 1,304株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年6月23日 定時株主総会	普通株式	399	18	平成29年3月31日	平成29年6月26日
平成29年11月8日 取締役会	普通株式	310	14	平成29年9月30日	平成29年12月1日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成30年6月22日 定時株主総会	普通株式	399	利益剰余金	18	平成30年3月31日	平成30年6月25日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	
	現金及び預金勘定	8,572	百万円	7,760
預入期間3カ月を超える定期預金	△17	〃	△17	〃
現金及び現金同等物	8,555	〃	7,743	〃

(リース取引関係)

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

重要性が乏しいため記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

重要性が乏しいため記載を省略しております。

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、主に塗料、自動車用防音材などの製造販売事業を行うための設備投資計画に照らして、必要な資金(主に銀行借入)を調達しております。

一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。

デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、グローバルに事業を展開していることから生じている外貨建ての債権は、為替の変動リスクに晒されておりますが、原則として外貨建ての債務をネットしたポジションについて先物為替予約を利用してヘッジしております。

投資有価証券は、主として取引先企業との業務又は資本提携等に関連する株式であり、発行体の信用リスク及び市場価格の変動リスクに晒されております。

支払手形及び買掛金は、ほとんど1年以内の支払期日であります。また、その一部には、原料等の輸入に伴う外貨建てのものがあり、為替の変動リスクに晒されておりますが、恒常的に同じ外貨建ての債権残高の範囲内にあります。

借入金及びファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであり、償還日は決算日後、最長で8年後であります。このうち一部は、変動金利であるため金利の変動リスクに晒されておりますが、その多くはデリバティブ取引(金利スワップ取引)を利用してヘッジしております。

デリバティブ取引は、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした金利スワップ取引、及び為替の変動リスクに対するヘッジを目的とした先物為替取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4 会計方針に関する事項 (7)重要なヘッジ会計の方法」をご参照下さい。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、受取手形及び売掛金、並びに長期貸付金について、各事業部が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社と同様の管理を行っております。

デリバティブ取引の利用にあたっては、信用度の高い国内の金融機関とのみ取引を行っており、相手先の不履行によるリスクは殆どないと判断しております。

当期の決算日現在における最大信用リスク額は、信用リスクに晒される金融資産の貸借対照表価額により表わされています。

② 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社の外貨建ての債権債務については、全体として受け取りと支払いの大部分は相殺され、為替リスクは限定的であると考えますが、為替相場の状況により、半年を限度として、配当金などの受け取りに係る予定取引により確実に発生すると見込まれる外貨建債権に対する先物為替予約を行っております。また、当社は、借入金に係る支払金利の変動リスクを抑制するために、金利スワップ取引を利用しております。

投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、また、満期保有目的の債券以外のものについては、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

デリバティブ取引につきましては、取り組み方針によりリスクヘッジ目的のみでの利用のため、取引発生京都稟議事項として事前決裁を受けることとしております。そのため管理規程は特に設けておりません。なお、デリバティブ取引の実行及び管理については当社は財務部が行っており、子会社では取締役会で決定されております。

③ 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告に基づき財務部が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性を一定額維持することなどにより、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。また、「デリバティブ取引関係」注記におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません（（注2）参照）。

前連結会計年度（平成29年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円) (*1)	時価 (百万円) (*1)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	8,572	8,572	—
(2) 受取手形及び売掛金	11,193	11,193	—
(3) 電子記録債権	2,448	2,448	—
(4) 投資有価証券	9,760	9,760	—
(5) 支払手形及び買掛金	(10,292)	(10,292)	—
(6) 短期借入金	(1,235)	(1,235)	—
(7) 長期借入金 (*2)	(5,459)	(5,457)	(1)
(8) デリバティブ取引 (*3)	(4)	(4)	—

(*1) 負債に計上されているものについては、()で示しております。

(*2) 長期借入金については、1年以内返済予定の長期借入金も含めて示しております。

(*3) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については()で表示しております。

当連結会計年度（平成30年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円) (*1)	時価 (百万円) (*1)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	7,760	7,760	—
(2) 受取手形及び売掛金	12,981	12,981	—
(3) 電子記録債権	3,974	3,974	—
(4) 投資有価証券	10,165	10,165	—
(5) 支払手形及び買掛金	(12,412)	(12,412)	—
(6) 短期借入金	(1,497)	(1,497)	—
(7) 長期借入金 (*2)	(6,536)	(6,526)	(10)
(8) デリバティブ取引 (*3)	(1)	(1)	—

(*1) 負債に計上されているものについては、() で示しております。

(*2) 長期借入金については、1年以内返済予定の長期借入金も含めて示しております。

(*3) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については()で表示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金、並びに(3) 電子記録債権

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記をご参照下さい。

(5) 支払手形及び買掛金、並びに(6) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(7) 長期借入金

これらの時価については、元利金の合計額を新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。変動金利による長期借入金については、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。なお、金利スワップの特例処理の対象となっている変動金利による長期借入金については、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を同様の借入を行なった場合に適用される合理的に見積られる利率で割り引いて算定する方法によっております。

(8) デリバティブ取引

デリバティブ取引は、取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。また、金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております(上記(7)参照)。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	平成29年3月31日	平成30年3月31日
非上場株式	8,624	8,951

これらについては、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4)投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度（平成29年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	8,567	—	—	—
受取手形及び売掛金	11,193	—	—	—
電子記録債権	2,448	—	—	—
合計	22,209	—	—	—

当連結会計年度（平成30年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	7,751	—	—	—
受取手形及び売掛金	12,981	—	—	—
電子記録債権	3,974	—	—	—
合計	24,707	—	—	—

(注4) 長期借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度（平成29年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	1,235	—	—	—	—	—
長期借入金	1,512	1,163	809	717	617	639
合計	2,748	1,163	809	717	617	639

当連結会計年度（平成30年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	1,497	—	—	—	—	—
長期借入金	1,569	1,210	1,127	1,024	797	807
合計	3,067	1,210	1,127	1,024	797	807

(有価証券関係)

前連結会計年度(平成29年3月31日)

1 その他有価証券

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの			
(1) 株式	9,632	2,430	7,201
小計	9,632	2,430	7,201
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの			
(1) 株式	128	153	△24
小計	128	153	△24
合計	9,760	2,583	7,176

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額167百万円)については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1) 株式	218	146	—
合計	218	146	—

3 減損処理を行った有価証券

重要性が乏しいため記載を省略しております。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

1 その他有価証券

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの			
(1) 株式	10,023	2,352	7,670
小計	10,023	2,352	7,670
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの			
(1) 株式	141	149	△8
小計	141	149	△8
合計	10,165	2,502	7,662

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額167百万円)については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1) 株式	166	101	—
合計	166	101	—

3 減損処理を行った有価証券

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

金利関連

前連結会計年度(平成29年3月31日)

	種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	350	128	△4	△4

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

	種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	117	6	△1	△1

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

金利関連

前連結会計年度(平成29年3月31日)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	210	45	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	45	—	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の国内連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付制度を採用しております。また、当社は複数事業主制度の厚生年金基金制度（総合設立型の関東塗料企業年金基金）に加入しておりますが、自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができない制度であるため、確定拠出制度と同様に会計処理しております。

一部の連結子会社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度（簡便法を適用した制度を除く。）

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
退職給付債務の期首残高	6,717	6,728
勤務費用	315	319
利息費用	7	13
数理計算上の差異の発生額	△67	8
退職給付の支払額	△251	△254
その他	5	△4
退職給付債務の期末残高	6,728	6,810

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
年金資産の期首残高	2,461	2,665
期待運用収益	49	53
数理計算上の差異の発生額	74	96
事業主からの拠出額	238	238
退職給付の支払額	△158	△168
年金資産の期末残高	2,665	2,884

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

	(百万円)	
	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	3,918	3,919
年金資産	△2,665	△2,884
	1,253	1,034
非積立型制度の退職給付債務	2,809	2,891
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	4,062	3,925
退職給付に係る負債	4,062	3,925
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	4,062	3,925

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
勤務費用	315	319
利息費用	7	13
期待運用収益	△49	△53
数理計算上の差異の費用処理額	96	89
過去勤務費用の費用処理額	△2	△2
確定給付制度に係る退職給付費用	369	366

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
過去勤務費用	△2	△2
数理計算上の差異	240	179
合計	237	177

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	(百万円)	
	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
未認識過去勤務費用	3	1
未認識数理計算上の差異	△236	△56
合計	△232	△54

(7) 年金資産に関する事項

①年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
債券	23%	25%
株式	41%	42%
一般勘定	32%	31%
その他	3%	2%
合計	100%	100%

②長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
割引率	0.1～8.0%	0.0～7.0%
長期期待運用収益率	2.0%	2.0%
予想昇給率	4.6～10.0%	4.6～10.0%

3. 簡便法を適用した確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	160	167
退職給付費用	22	27
退職給付の支払額	△15	△24
制度への拠出額	△1	△6
退職給付に係る負債の期末残高	167	165

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

	(百万円)	
	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	120	126
年金資産	△68	△73
	52	53
非積立型制度の退職給付債務	115	111
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	167	165
退職給付に係る負債	167	165
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	167	165

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	前連結会計年度	22百万円	当連結会計年度	27百万円
----------------	---------	-------	---------	-------

4. 複数事業主制度

確定拠出制度と同様に会計処理する、複数事業主制度の厚生年金基金制度への要拠出額は、前連結会計年度24百万円、当連結会計年度21百万円であります。

(1) 複数事業主制度の直近の積立状況

	(百万円)	
	前連結会計年度 平成28年3月31日現在	当連結会計年度 平成29年3月31日現在
年金資産の額	1,998	2,101
年金財政計算上の数理債務の額と最低責任 準備金の額との合計額	2,042	2,162
差引額	△43	△60

(2) 複数事業主制度の掛金に占める当社グループの割合

前連結会計年度	16.03%	(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
当連結会計年度	19.28%	(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、当年度不足金(前連結会計年度△43百万円、当連結会計年度△60百万円)であります。本制度における過去勤務債務の償却方法は期間7ヶ月の元利均等償却であります。

なお、上記(2)の割合は当社の実際の負担割合とは一致しておりません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
(繰延税金資産)		
未払事業税	29百万円	41百万円
未払賞与	241 "	252 "
未払費用	99 "	119 "
減価償却費	104 "	156 "
退職給付に係る負債	1,297 "	1,253 "
長期未払金	8 "	8 "
投資有価証券評価損	15 "	15 "
未実現利益	84 "	128 "
繰越欠損金	116 "	35 "
その他	58 "	71 "
繰延税金資産 小計	2,056 "	2,081 "
評価性引当金	△152 "	△38 "
繰延税金資産 合計	1,904 "	2,043 "
(繰延税金負債)		
固定資産圧縮積立金	△0 "	△0 "
その他有価証券評価差額金	△2,182 "	△2,331 "
土地	△34 "	△34 "
留保利益	△440 "	△500 "
繰延税金負債 合計	△2,657 "	△2,866 "
繰延税金資産 (又は負債) の純額	△753 "	△822 "

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	30.86%	30.86%
(調整)		
交際費等永久に損金に 算入されない項目	0.81 "	0.98 "
受取配当等永久に益金に 算入されない項目	△0.16 "	△0.20 "
住民税均等割等	0.48 "	0.56 "
外国源泉税	1.85 "	2.53 "
研究開発減税等	△2.12 "	△2.42 "
持分法投資損益等	△15.63 "	△12.10 "
海外子会社税率差異	△1.24 "	△1.88 "
留保利益	6.56 "	1.05 "
繰越欠損金の利用	— "	△1.35 "
評価性引当額の増減	— "	△0.61 "
その他	△1.73 "	0.23 "
税効果会計適用後の法人税等の負担率	19.70 "	17.65 "

(資産除去債務関係)

前連結会計年度(平成29年3月31日)

重要性が乏しいため記載を省略しております。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

重要性が乏しいため記載を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

前連結会計年度(自平成28年4月1日至平成29年3月31日)

重要性が乏しいため記載を省略しております。

当連結会計年度(自平成29年4月1日至平成30年3月31日)

重要性が乏しいため記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、本社に塗料事業本部と自動車製品事業本部を置き、取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、各事業本部が密接に関係する子会社及び関連会社と連携しながら、事業活動を展開しております。

したがって、当社は、事業本部を基礎とした製品・サービス別のセグメントから構成されており、「塗料関連事業」及び「自動車製品関連事業」の2つを報告セグメントとしております。

塗料関連事業では、塗料の製造、販売及び工事請負を主たる事業としており、自動車製品関連事業では、自動車用防音材、防錆塗料など自動車部品の製造及び販売を主たる事業としております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結財務諸表 計上額(注) 3
	塗料関連	自動車 製品関連	計				
売上高							
外部顧客への売上高	15,220	32,763	47,984	13	47,998	—	47,998
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3	—	3	—	3	△3	—
計	15,224	32,763	47,988	13	48,002	△3	47,998
セグメント利益	715	2,440	3,155	7	3,162	—	3,162
セグメント資産	10,517	38,662	49,180	48	49,228	17,759	66,987
その他の項目							
減価償却費	215	2,068	2,283	—	2,283	—	2,283
持分法投資利益	21	3,498	3,519	—	3,519	—	3,519
持分法適用会社への 投資額	180	9,271	9,452	—	9,452	—	9,452
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	194	5,534	5,729	—	5,729	1,158	6,887

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理業であります。

2 調整額は以下のとおりであります。

セグメント資産の調整額17,759百万円、有形固定資産及び無形固定資産の増加額1,158百万円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。全社資産は、主に当社の余資運用資金（現金及び預金等）、長期投融資資金（投資有価証券等）並びに当社での管理部門に係る資産等であります。

3 セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結財務諸表 計上額(注) 3
	塗料関連	自動車 製品関連	計				
売上高							
外部顧客への売上高	16,124	41,122	57,246	13	57,260	—	57,260
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3	—	3	—	3	△3	—
計	16,127	41,122	57,250	13	57,263	△3	57,260
セグメント利益	448	2,830	3,279	6	3,286	—	3,286
セグメント資産	10,488	48,396	58,885	49	58,934	18,108	77,043
その他の項目							
減価償却費	226	2,709	2,936	—	2,936	—	2,936
減損損失	7	20	28	—	28	—	28
持分法投資利益	21	2,349	2,371	—	2,371	—	2,371
持分法適用会社への 投資額	200	9,560	9,761	—	9,761	—	9,761
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	178	8,584	8,763	—	8,763	573	9,336

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理業であります。

2 調整額は以下のとおりであります。

セグメント資産の調整額18,108百万円、有形固定資産及び無形固定資産の増加額573百万円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。全社資産は、主に当社の余資運用資金（現金及び預金等）、長期投融資資金（投資有価証券等）並びに当社での管理部門に係る資産等であります。

3 セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

(単位：百万円)

	塗料関連事業			自動車製品関連事業				その他	合計
	塗料	請負工事	その他	防錆塗料	制振材	吸・遮音材	その他		
外部顧客への 売上高	10,393	4,432	394	4,871	5,097	18,757	4,038	13	47,998

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	中国	インドネシア	その他	合計
41,356	3,967	1,991	683	47,998

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	中国	インドネシア	合計
15,260	2,327	1,311	18,899

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
(株)中外	5,814	自動車製品関連事業
本田技研工業(株)	5,676	自動車製品関連事業

(注) 売上高は、同一の企業集団に属する顧客への売上高を集約して記載しております。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

(単位：百万円)

	塗料関連事業			自動車製品関連事業				その他	合計
	塗料	請負工事	その他	防錆塗料	制振材	吸・遮音材	その他		
外部顧客への売上高	9,984	5,695	444	5,027	5,338	26,176	4,580	13	57,260

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	中国	インドネシア	その他	合計
49,124	5,486	1,939	710	57,260

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	中国	インドネシア	合計
20,431	3,403	1,209	25,044

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
本田技研工業(株)	7,005	自動車製品関連事業
(株)中外	6,456	自動車製品関連事業

(注) 売上高は、同一の企業集団に属する顧客への売上高を集約して記載しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

該当事項はありません。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

該当事項はありません。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

該当事項はありません。

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

当連結会計年度において、重要な関連会社はUGN, Inc. 及び日特固(広州)防音配件有限公司であり、当該2社の財務諸表を合算して作成した要約財務情報は以下のとおりであります。

	(百万円)
流動資産合計	13,453
固定資産合計	19,523
流動負債合計	7,936
固定負債合計	3,866
純資産合計	21,174
売上高	52,712
税引前当期純利益	11,055
当期純利益	7,442

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

該当事項はありません。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

該当事項はありません。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

該当事項はありません。

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

当連結会計年度において、重要な関連会社はUGN, Inc. 及び日特固(広州)防音配件有限公司であり、当該2社の財務諸表を合算して作成した要約財務情報は以下のとおりであります。

	(百万円)
流動資産合計	11,652
固定資産合計	23,610
流動負債合計	7,723
固定負債合計	5,957
純資産合計	21,581
売上高	51,543
税引前当期純利益	6,081
当期純利益	4,595

(1株当たり情報)

1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
(1) 1株当たり純資産額	1,662円73銭	1,820円06銭
(算定上の基礎)		
連結貸借対照表の純資産の部の合計額(百万円)	39,539	43,674
純資産額の部の合計額から控除する金額(百万円)	2,775	3,434
(うち非支配株主持分)	(2,775)	(3,434)
普通株式に係る純資産額(百万円)	36,763	40,239
1株当たり純資産額の算定に用いられた 普通株式の数(千株)	22,110	22,109

項目	前連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)
(2) 1株当たり当期純利益金額	216円11銭	179円12銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	4,778	3,960
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	4,778	3,960
普通株式の期中平均株式数(千株)	22,110	22,109
(3) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	—	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

⑤【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	1,235	1,497	1.71	—
1年以内に返済予定の長期借入金	1,512	1,569	1.57	—
1年以内に返済予定のリース債務	113	47	8.86	—
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	3,946	4,966	0.96	平成31年1月から 平成38年2月
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)	231	181	8.56	平成31年3月から 平成38年2月
その他有利子負債				
従業員預金	376	—	—	—
営業保証金	232	241	0.42	—
合計	7,649	8,504	—	—

- (注) 1 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。
 2 リース債務の「平均利率」については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額で連結財務諸表に計上しているものを除いて算定しております。
 3 連結決算日と連結子会社の決算日が異なる場合、返済期限が連結決算日より1年以内であるものが含まれております。
 4 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。なお、その他有利子負債(従業員預金及び営業保証金)についてはそれぞれ返済期限の定めがないため、記載しておりません。

区分	1年超2年以内	2年超3年以内	3年超4年以内	4年超5年以内
長期借入金(百万円)	1,210	1,127	1,024	797
リース債務(百万円)	138	32	4	2

【資産除去債務明細表】

重要性が乏しいため記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	12,344	26,233	41,588	57,260
税金等調整前四半期(当期)純利益金額 (百万円)	1,281	2,601	4,228	5,769
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益金額 (百万円)	917	1,842	2,901	3,960
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	41.47	83.32	131.24	179.12

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	41.47	41.85	47.92	47.88

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

① 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年 3月31日)	当事業年度 (平成30年 3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,988	4,374
受取手形	※2 1,753	※2, ※5 1,698
電子記録債権	※2 2,416	※2, ※5 3,940
売掛金	※2 7,257	※2 8,229
商品及び製品	1,123	1,190
仕掛品	280	344
原材料及び貯蔵品	785	807
前払費用	34	43
繰延税金資産	334	375
その他	※2 1,323	※2 1,892
貸倒引当金	△3	△3
流動資産合計	20,293	22,891
固定資産		
有形固定資産		
建物	※1 2,398	※1 4,758
構築物	※1 201	※1 308
機械及び装置	※1 1,806	※1 2,177
車両運搬具	37	50
工具、器具及び備品	1,618	1,641
土地	※1 3,560	※1 3,602
建設仮勘定	760	2,503
有形固定資産合計	10,384	15,043
無形固定資産		
ソフトウェア	132	221
その他	34	106
無形固定資産合計	166	327
投資その他の資産		
投資有価証券	※1 9,919	※1 10,324
関係会社株式	3,247	3,439
関係会社出資金	1,366	1,366
長期貸付金	※2 3,143	※2 3,347
破産更生債権等	0	0
長期前払費用	77	16
その他	131	133
貸倒引当金	△28	△35
投資その他の資産合計	17,858	18,592
固定資産合計	28,409	33,963
資産合計	48,703	56,855

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年 3月31日)	当事業年度 (平成30年 3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	※2 274	※2, ※5 416
設備関係支払手形	674	※5 2,470
電子記録債務	※2 2,544	※2, ※5 3,511
買掛金	※2 6,394	※2 7,114
短期借入金	※1 852	※1 1,037
未払金	※2 1,243	※2 1,661
未払費用	※2 951	※2 1,051
未払法人税等	70	267
預り金	※2 274	※2 303
従業員預り金	※1 376	-
役員賞与引当金	76	86
その他	※2 88	※2 50
流動負債合計	13,820	17,971
固定負債		
長期借入金	※1 2,523	※1 3,894
繰延税金負債	908	983
退職給付引当金	3,820	3,852
長期末払金	130	88
固定負債合計	7,382	8,818
負債合計	21,203	26,789
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,753	4,753
資本剰余金		
資本準備金	4,258	4,258
その他資本剰余金	99	99
資本剰余金合計	4,358	4,358
利益剰余金		
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	0	0
別途積立金	6,625	6,625
繰越利益剰余金	7,249	9,478
利益剰余金合計	13,875	16,104
自己株式	△478	△478
株主資本合計	22,508	24,737
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	4,991	5,328
評価・換算差額等合計	4,991	5,328
純資産合計	27,500	30,065
負債純資産合計	48,703	56,855

②【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月 31日)	当事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月 31日)
売上高	※1 38,056	※1 44,591
売上原価	※1 29,813	※1 35,585
売上総利益	8,242	9,005
販売費及び一般管理費	※2 7,117	※2 8,132
営業利益	1,124	872
営業外収益		
受取利息及び配当金	※1 2,642	※1 2,523
その他	103	122
営業外収益合計	2,746	2,646
営業外費用		
支払利息	24	23
為替差損	116	10
貸倒引当金繰入額	7	7
その他	5	3
営業外費用合計	153	43
経常利益	3,717	3,475
特別利益		
受取保険金	0	23
投資有価証券売却益	144	101
特別利益合計	144	125
特別損失		
固定資産処分損	161	206
減損損失	-	28
投資有価証券評価損	0	-
特別損失合計	161	234
税引前当期純利益	3,701	3,366
法人税、住民税及び事業税	374	541
法人税等調整額	44	△114
法人税等合計	418	427
当期純利益	3,282	2,939

③【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金			利益剰余金合計
				固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	4,753	4,258	99	4,358	1	6,625	4,498	11,125
当期変動額								
剰余金の配当							△532	△532
当期純利益							3,282	3,282
固定資産圧縮積立金の取崩					△0		0	-
自己株式の取得								
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	-	-	△0	-	2,750	2,749
当期末残高	4,753	4,258	99	4,358	0	6,625	7,249	13,875

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	△477	19,758	4,183	4,183	23,942
当期変動額					
剰余金の配当		△532			△532
当期純利益		3,282			3,282
固定資産圧縮積立金の取崩		-			-
自己株式の取得	△0	△0			△0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）		-	808	808	808
当期変動額合計	△0	2,749	808	808	3,558
当期末残高	△478	22,508	4,991	4,991	27,500

当事業年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金 合計	その他利益剰余金			利益剰余金 合計
					固定資産 圧縮積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金	
当期首残高	4,753	4,258	99	4,358	0	6,625	7,249	13,875
当期変動額								
剰余金の配当							△710	△710
当期純利益							2,939	2,939
固定資産圧縮積立金の取崩					△0		0	-
自己株式の取得								-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)								-
当期変動額合計	-	-	-	-	△0	-	2,229	2,228
当期末残高	4,753	4,258	99	4,358	0	6,625	9,478	16,104

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△478	22,508	4,991	4,991	27,500
当期変動額					
剰余金の配当		△710		-	△710
当期純利益		2,939		-	2,939
固定資産圧縮積立金の取崩				-	-
自己株式の取得	△0	△0		-	△0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			336	336	336
当期変動額合計	△0	2,228	336	336	2,565
当期末残高	△478	24,737	5,328	5,328	30,065

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

① 子会社及び関連会社株式

移動平均法による原価法

② その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

(2) デリバティブの評価基準及び評価方法

時価法

(3) たな卸資産の評価基準及び評価方法

総平均法による原価法 (貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

2 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産 (リース資産を除く)

定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 10～50年

機械及び装置 8～9年

(2) 無形固定資産 (リース資産を除く)

定額法によっております。

なお、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産は、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

3 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売掛金等の債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当事業年度に見合う分を計上しております。

(3) 退職給付引当金

・ 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による按分額(定額法)を、費用処理しております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による按分額(定額法)を、それぞれ発生した年の翌事業年度より費用処理しております。

・ 未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の貸借対照表における取扱いが連結貸借対照表と異なります。

4 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 外貨建資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(2) 完成工事高及び完成工事原価の計上基準

- ・ 工事の進行途上においても、その進捗部分について成果の確実性が認められる場合
工事進行基準によっております。
- ・ 上記の要件を満たさない場合
工事完成基準によっております。
- ・ 決算日における工事進捗度の見積方法
工事進行基準における原価比例法

(3) ヘッジ会計の方法

金利スワップ取引については、特例処理の要件を満たすものについては、特例処理によっております。

(4) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜き方式によっております。

(表示方法の変更)

(貸借対照表関係)

電子記録債権の表示方法は、従来、貸借対照表上、受取手形（前事業年度4,170百万円）として表示しておりましたが、重要性が増したため、当事業年度より、電子記録債権（当事業年度3,940百万円）として表示しております。

また、電子記録債務の表示方法は、従来、貸借対照表上、支払手形（前事業年度2,818百万円）として表示しておりましたが、重要性が増したため、当事業年度より、電子記録債務（当事業年度3,511百万円）として表示しております。

(損益計算書)

貸倒引当金繰入額の表示方法は、従来、損益計算書上、営業外費用のその他（前事業年度13百万円）に含めて表示しておりましたが、重要性が増したため、当事業年度より、貸倒引当金繰入額（当事業年度7百万円）として表示しております。

(貸借対照表関係)

※1 担保に供している資産

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
建物	382百万円	374百万円
構築物	11 "	8 "
機械及び装置	111 "	107 "
土地	385 "	385 "
投資有価証券	2,600 "	2,798 "
計	3,492 "	3,675 "

上記見合いの対応債務

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
短期借入金	588百万円	566百万円
従業員預り金	376 "	— "
長期借入金	2,226 "	2,973 "
計	3,191 "	3,540 "

※2 関係会社に対する資産・負債

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
短期金銭債権	2,296百万円	2,805百万円
長期金銭債権	3,143 "	3,347 "
短期金銭債務	2,364 "	2,592 "

3 保証債務

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
債務保証	2,280百万円	1,769百万円
債務保証予約	600 "	600 "

4 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。

当事業年度末における当座貸越契約及び貸出コミットメントに係る借入未実行残高等は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
当座貸越極度額及び貸出 コミットメントの総額	3,500百万円	3,500百万円
借入実行残高	— "	— "
差引額	3,500 "	3,500 "

※5 期末日満期手形等の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、期末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形等を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
受取手形	— 百万円	162百万円
電子記録債権	— "	85 "
支払手形	— "	38 "
電子記録債務	— "	283 "
設備関係支払手形	— "	87 "

(損益計算書関係)

※1 関係会社との取引高

(1) 営業取引による取引高

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
売上高	2,807百万円	2,812百万円
仕入高	7,277 "	9,246 "

(2) 営業取引以外による取引高

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
受取配当金	2,396百万円	2,251百万円

※2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
運搬費	1,182百万円	1,452百万円
減価償却費	439 "	618 "
研究開発費	1,517 "	1,669 "
給料手当	1,491 "	1,535 "
役員賞与引当金繰入額	76 "	86 "
退職給付費用	136 "	134 "
おおよその割合		
販売費	44%	45%
一般管理費	56 "	55 "

(有価証券関係)

前事業年度 (平成29年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式2,307百万円、関連会社株式939百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度 (平成30年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式2,473百万円、関連会社株式965百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
(繰延税金資産)		
未払事業税	19百万円	30百万円
未払賞与	199 "	207 "
未払費用	89 "	110 "
減価償却費	102 "	158 "
退職給付引当金	1,170 "	1,179 "
長期未払金	7 "	7 "
投資有価証券評価損	15 "	15 "
関係会社株式評価損	27 "	27 "
その他	38 "	50 "
小計	1,670 "	1,787 "
評価性引当金	△63 "	△65 "
繰延税金資産 合計	1,607 "	1,721 "
(繰延税金負債)		
固定資産圧縮積立金	△0百万円	△0百万円
その他有価証券評価差額金	△2,180 "	△2,329 "
繰延税金負債 合計	△2,181 "	△2,329 "
繰延税金資産又は繰延税金負債 (△)の純額	△574 "	△608 "

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	30.86%	30.86%
(調整)		
交際費等永久に損金に 算入されない項目	0.92 "	1.19 "
受取配当等永久に益金に 算入されない項目	△19.28 "	△19.97 "
住民税均等割等	0.80 "	0.88 "
外国源泉税	3.36 "	4.33 "
研究開発減税等	△3.58 "	△4.01 "
その他	△1.77 "	△0.59 "
税効果会計適用後の法人税等の 負担率	11.31 "	12.69 "

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

④ 【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	7,662	2,629	306 (27)	216	9,985	5,227
	構築物	1,196	142	28 (0)	30	1,310	1,002
	機械及び装置	12,308	775	646	357	12,438	10,260
	車両運搬具	249	29	11	17	267	217
	工具、器具及び備品	11,212	1,356	436	1,327	12,132	10,490
	土地	3,560	42	—	—	3,602	—
	建設仮勘定	760	7,246	5,503	—	2,503	—
	計	36,950	12,222	6,932 (28)	1,950	42,241	27,198
無形固定資産	ソフトウェア	238	146	28	57	356	134
	その他	37	227	155	0	109	3
	計	276	373	183	57	465	138

(注) 1 当期期首残高又は当期末残高については、取得価額により記載しております。

2 主な当期増加額の内容

建物	愛知工場 新工場及び社宅 新本社建屋	2,036百万円 335	〃
機械装置	愛知工場 フロアカーペット生産設備	517	〃
工具器具備品	金型類	1,099	〃
建設仮勘定	愛知工場 新工場及び社宅 愛知工場 フロアカーペット生産設備	2,303 1,617	〃 〃

3 主な当期減少額の内容

(売却)			
機械装置	愛知工場 制振材生産設備	69百万円	
(除却)			
機械装置	愛知工場 制振材生産設備 平塚工場 塗料生産設備 吸・遮音材生産設備 (日晃工業株内)	239百万円 124 121	〃 〃 〃

4 当期減少額の()内は内書きで、減損損失の計上額であります。

【引当金明細表】

(単位：百万円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	32	7	0	39
役員賞与引当金	76	86	76	86

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・ 売渡し	
取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	—
買取・売渡手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によつて電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL http://www.nttoryo.co.jp/
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当会社の単元未満株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当及び募集新株予約権の割当を受ける権利
- (4) 株主の有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の株式を売り渡すことを請求する権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書 及びその添付書類 並びに確認書	事業年度 (第111期)	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日	平成29年6月23日 関東財務局長に提出
(2) 内部統制報告書及び その添付書類	事業年度 (第111期)	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日	平成29年6月23日 関東財務局長に提出
(3) 四半期報告書 及び確認書	第112期 第1四半期 第112期 第2四半期 第112期 第3四半期	自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日 自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日 自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日	平成29年8月10日 関東財務局長に提出 平成29年11月10日 関東財務局長に提出 平成30年2月13日 関東財務局長に提出
(4) 臨時報告書	企業内容等の開示に関する内閣府令第19条 第2項第9号の2（株主総会における議決権行使 の結果）の規定に基づく臨時報告書		平成29年6月27日 関東財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成30年6月22日

日本特殊塗料株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 麻 生 和 孝 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中 野 強 ㊞

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日本特殊塗料株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本特殊塗料株式会社及び連結子会社の平成30年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、日本特殊塗料株式会社の平成30年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、日本特殊塗料株式会社が平成30年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

※1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成30年6月22日

日本特殊塗料株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 麻 生 和 孝 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中 野 強 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日本特殊塗料株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第112期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本特殊塗料株式会社の平成30年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- ※1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】 内部統制報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の4第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年6月22日

【会社名】 日本特殊塗料株式会社

【英訳名】 Nihon Tokushu Toryo Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 酒井 万喜夫

【最高財務責任者の役職氏名】 代表取締役専務業務本部長 田 谷 純

【本店の所在の場所】 東京都北区王子三丁目23番2号

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

代表取締役社長酒井万喜夫及び代表取締役専務業務本部長田谷純は、当社の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用しております。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものであります。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性があります。

2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

代表取締役社長酒井万喜夫及び代表取締役専務業務本部長田谷純は、当事業年度の末日である平成30年3月31日を基準日として、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、評価を実施しております。

本評価に当たっては、財務報告に係る内部統制について、当社及び当社の連結子会社並びに持分法適用会社（以下「当社グループ」という）を対象として、財務報告全体に対する金額的及び質的影響の重要性を検討し、財務報告に係る内部統制の評価に関する実施基準に示されている以下の手順及び方法で、評価の範囲を合理的に決定いたしました。

まず、全社的な内部統制について、金額的及び質的影響の重要性の観点から僅少な事業拠点を除くすべての事業拠点を対象に評価を実施いたしました。次に、決算・財務報告に係る業務プロセスにおける内部統制について、全社的な観点で評価することが適切と考えられるものについては、全社的な内部統制に準じて、金額的及び質的影響の重要性の観点から僅少な事業拠点を除くすべての事業拠点について評価いたしました。続いて、その他の業務プロセスにおける内部統制については、全社的な内部統制の評価結果を踏まえた上で、前連結会計年度の売上高（連結会社間取引消去後）を指標として、その概ね2/3程度の割合に達している事業拠点を「重要な事業拠点」として選定し、選定した事業拠点において、当社グループの事業目的に大きく関わる勘定項目である売上、売掛金及び棚卸資産に至る業務プロセスを評価対象といたしました。評価の対象とした業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点について整備及び運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行いました。さらに、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスやリスクが大きい取引を行っている事業又は業務に係る業務プロセスを財務報告への影響を勘案して、重要性の大きい業務プロセスとして個別に評価の対象に追加いたしました。

3 【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当事業年度末日時点において、当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断いたしました。

4 【付記事項】

該当事項はありません。

5 【特記事項】

該当事項はありません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の2第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年6月22日
【会社名】	日本特殊塗料株式会社
【英訳名】	Nihon Tokushu Toryo Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 酒井 万喜夫
【最高財務責任者の役職氏名】	代表取締役専務業務本部長 田 谷 純
【本店の所在の場所】	東京都北区王子三丁目23番2号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【有価証券報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長酒井万喜夫及び当社最高財務責任者田谷純は、当社の第112期(自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)の有価証券報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。